

# 大阪医科大学学報

第72号

平成19年 5月

(インターネット版)



由布岳遠景

## ◆目

入学宣誓式	2
最終講義	5
名誉教授称号授与	8
新任教授紹介	9
教育機構長就任挨拶	10
規程関係	11
人事関係	16
寄付金報告について	25
平成19年度事業計画	27
平成19年度取支予算	31
科学研究費補助金交付内定について	35
学術奨励金等・助成金等について	38
中山国際医学医療交流センター	39
格付について 感謝状伝達	46
受賞等について	47

## ◆次◆

教育センター	48
平成18年度給付奨学金支給特待生	48
学位記授与	49
学内行事	54
LDセンター活動報告	58
市民公開講座	60
大学交流センター事業「市民講座」行事予定	61
薬剤部関係	62
臨床治験センター	64
医療安全対策室関係・感染対策室関係	65
主要会議報告	66
入学試験及び国家試験状況 附属病院関係	69
保健管理室からのお知らせ	70
歴史資料館	72
俳句	74

## 平成19年度入学宣誓式

### 医学部医学科

日 時： 平成19年4月3日（火） 14：00～

場 所： 新講義実習棟1階 P101室

入学生： 101名



### 平成19年度 入学式告辞

学長 植木 實

皆さん、本日はご入学おめでとうございます。ご両親、保護者の皆様もお慶びのことと拝察申し上げます。

本日は学校法人の役員の皆様、仁泉会 榎原理事長、名誉教授並びに多くの教授の先生方にご出席を頂いております。また、大学間の交流による臨床実習で皆さんがお世話になります関西医科大学の山下敏夫学長先生にもご臨席を賜っております。

さて、皆さんは大学入試に向かって、小学校の高学年から中学・高等学校と長年の間、自分自身、努力されてこられたことと存じますが、大学入学までの道を支えて下さいましたご両親並びにご家族に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

今年入学された皆さんには平成生まれの方が混じり始め、昭和生まれの方もほとんど平成の時代に育ってこられました。この平成という言葉の成り立ちやその意味を憶えておられますでしょうか。この元号は中国の古典『史記』の「内平外成」と、『書経』の「地平天成」から取ったもので、「内外、天地とも平和が達成される」という意味が込められています。その意味の通り、皆さんは平和な時代に生まれ、幸せに育ってこられました。私は、第二次世界大戦では子供の時にサイパン島で恐ろしい目に遭いました経験から、この平和は守らねばならないと思います。そのためには、皆さんが医師となって社会に役立ち、そして良き知識人となってこの日本社会をリードして頂きたいと念願致します。

諸君は明日から、医師になるための大阪医科大学での生活が始まります。本学の理念は「人間性豊かな良医の育成」であります。良医になるための学習はもちろん大切で、これに対しては本学は全国でも有数の教育環境・施設と教育人材を整えています。しかし皆さんは、長い受験生活のために多くの方が広い視野が得られない状態にあったと推察されます。豊かで幅の広い人間性を得るには、まず多くの人と交わらなければなりません。同級生やクラブの先輩、後輩と友達になり、その輪を広げることであります。人とのコミュニケーションは、医師への第一歩でもあります。

大学は「よく学び、よく遊ぶ」ところです。「遊ぶ」という言葉は「楽しむ」という意味もありますが、「旅をして世の中を見たり、人と交わって知識を広げ、人間を豊かにしていく」という意味がもとにもあります。即ち、「よく学び」は医師になるための勉強を、「よく遊び」は楽しみながら人間性を磨く学習を指すもので、その意味での「よく学び、よく遊ぶ」を実践して頂きたいと思います。

ここで今日、皆さんに知っておいてほしいこととしまして、本学では在学中、安心して学べる生活環境作りの整備を進めていることです。奨学金としては大阪医科大学30名、本学同門会（仁泉会）12名、並びに日本学生支援機構51名があります。さらに本学は特待生制度の充実を図っており、第1学年10名、第2学年、第4学年と第6学年各3名の成績優秀者に対して学費の一部が給付され、加えて、鉤給付奨学金女子2名と伊藤給付奨学金3名が設けられました。是非、新入生の皆さんはこの特待生や給付奨学金制度にチャレンジして頂きたいと思います。

最後に、諸君に強く求めたいことは「医師の知識不足は許されない」ということであり、これをぜひ胸に刻み込んで下さい。そして、大阪医科大学の学生としての誇りと自信を持ち、人間性豊かな良医となる目標を失わず、「よく学び、よく遊ぶ」を実践しながら、悔いのない青春と大学生活を送って下さることを希望して、ご入学の祝詞と致します。



## 大学院医学研究科

日 時： 平成19年4月3日（火） 11：00～  
場 所： 別館（歴史資料館）3階 大学院多目的講義室  
入学生： 29名



### 平成19年度 大学院入学式告辞

学長 植木 實

皆さん、この度は大学院へのご入学おめでとうございます。今年は29名の方が入学されましたが、皆さんは優れた研究者或いは一流の臨床力を持つ医師になるための研究をされる方々と思います。

私は学長就任以来、大学及び大学院の教育と研究のレベルアップに取り組んでおり、責任の所在や仕事内容を判りやすくするためにも、教育機構と研究機構を設置し、それぞれ教育教授、研究教授を選任しております。また、大学院に関しても委員長宮崎教授と相談しながら、大学院施設として事務室、カンファレンスルームや講堂の設置、講義や単位の在り方、研究系の改善、また大学院生の研究室や実験室を谷川研究機構長と相談して研究機構を大学院との共同使用にするなど、大学院を姿の見える機構へと改革に取り組んでおります。

一方、昨年末に本学が大学の認証（文部科学省の大学調査）を受けた際に、なるべく4年間で学位が取れるようにするよう指摘されております。従いまして、皆さんが努力しても研究が進まない時は指導教授や指導医師に相談し、また大学院委員長や委員の教授の方々にご相談して頂きたいと思っております。

皆さんがこれから大学院生として研究をしていく上で重要なことは、“独創性”であります。自動車メーカー「ホンダ」の創業者である本田宗一郎氏は、研究者に絶えず「人と変わったことをやれ」と言い続けたといわれています。独創性は研究論文の要であり、時に発想を変え、或いは成績、結果を違う観点から眺めて考える心構えがあれば、ずいぶん良い研究になると思います。是非、この独創性と、違った視点から成績を見ることを忘れないで下さい。

最後に、大阪医科大学は大学院を重視し、発展させて参ります。皆さんは学位を取られ、本学のエリートとして本学の牽引者になって頂く方々であり、その意識を持って研究に励まれますよう期待しております。

皆さんのこれからのご活躍をお祈りして、ご入学のごあいさつと致します。

## 最終講義

救急医学 教授 富士原 彰

本年3月末をもって定年を迎えられた救急医学・富士原 彰教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時： 平成19年2月28日（水）14:00～15:00

場 所： 臨床第1講堂

演 題： 『救急医療体制と医学教育』



1997年（平成9年）第三次医療法の改正により、365日、24時間いつでもすべての疾患に対応できる救急医療機関の質的充実の第一歩が踏み出された。しかし、専門性重視の医師教育の現場と救急医療の現場には相反した状況が生じている。私は救急専従医の立場で、現状の救急医学教育について、診療面、教育面からその問題について考えてみた。

わが国の救急医療は社会環境の変化や疾病構造の変化に伴い変貌を遂げてきた。わが国では、自動車の普及と共に急増する交通事故や労働災害による救急需要を目的としたため外科系医師を中心とした診療体制が進められてきた。しかも、診療の中心は、教育機関である大学附属病院やマンパワーのある大病院でなく、ある一定の診療条件を満たした私的医療機関であった。しかし、今日では脳血管障害、心筋梗塞等々疾病救急が60%以上占める現況から救急医療のあり方を改める必要に迫られている。

医学教育の面をみると、1972年、全国に先駆けて、大阪大学に救急部が設立された。救急の専門教育を受けたスタッフが育成され、以後、主として、私立医科大学を中心に救急部、救急講座が設立されてきた。救急医療とは、外傷を扱う医療であり、外傷侵襲学を学問するところとする考えから、重症外傷を診療する外科系医師による外科中心の教育が行われていた。救急疾患に対する教育、診療、研究においては、現在ある夫々の診療科で行えば良いとの考え方が未だに根強くある。救急医学の領域で非常に大切な、急性心不全、呼吸不全、ショック、多発外傷等で来院する救急患者の多様な訴え、症状を全身疾患として捉える考え方、また、総論的に包括して教育することが、不足していると言わざるを得ない。

その一方で、多くの教育機関では各科で行うべき救急に対する教育、診療、研究も日常の専門診療に追われるが故に、逃避せざるを得ない状況に陥り、救急不要論もとび出す始末である。加えて、専門領域を深く究めるために医学の細分化はやむを得ないとは言え、今日のように多数の診療科に専門分化した教育、診療体系が、原因不明の状態で来院する患者に対して広い視野に立った総合的な診断を下すことを不可能にしている。専門以外は診療しない、診療しても、的確な診療科にコンサルトできない医師が誕生しているのは事実である。専門医に目隠しをさせ、原因の明らかでない胸痛患者を診させたら、Cardiologistは冠微少循環障害だといひ、Gastroenterologistは食道痙攣、Rheumatologistは繊維筋痛症とPsychiatristはパニック障害だと診断するがごときである。

## 最終講義

---

身近で最近経験した事例にこのようなものがある。患者はめまいと嘔気を主訴として来院しました。種々の検査を行い、頭部CTにおいて明らかな出血や梗塞がないので、初療医は耳鼻科にコンサルトした。耳鼻科的疾患を考えさせる所見に乏しく、頭蓋内病変の疑いは持ったが、日をあらため、再度受診するようにした。脳神経外科に再受診時広範囲の梗塞巣を認めた。また嘔吐後に突然の激しい胸痛で搬送されてきた患者で、初療医は種々検査をして、心電図変化がないので、命に関わる心筋梗塞や大動脈解離はないと考え、紹介医に返したところ、再度依頼があり搬送されてきた食道破裂の例等問題のある症例を経験している。ちなみにこの初療医は循環器専門医である。各科救急でありがちな弱点と言うべきか、診断確定を優先するあまり、患者の生理的機能異常を重要視しないことに問題があると考え。

現在救急医療教育は、各医療施設において、診療の標準化を目的にJATEC（外傷初期診療ガイドライン）、ACLS（救急心血管治療のための国際ガイドライン）に基づいたOff the job trainingが、実地臨床現場に参加し、仕事の中で学ぶOn the job trainingが行われている。しかし、各医療施設の救急診療システム、多くの大学病院および大病院がそうであるように、各科相乗り型か、ER型か、また救命救急センターがこれにあてはまるがcritical care型（集中治療）であるか、臨床修練の場により、臨床経験に偏在がみられる。critical care型（集中治療）である三島救命救急センターでの研修医のアンケートをみると、指導医により症例に偏りがあり、初期診療から専門まで幅広く経験できるが、初期診療より専門診療に偏る傾向と答えている。ER型や相乗り型では、初期診療が主となり、専門性のところが欠如する傾向がみられる。いずれにしても、診療、教育に問題をかかえている。

以上のような、救急医療の現状をふまえて、各診療科間の連携が充分でない現状において、救急部門に数少ない専門医を配置して治療を行うより、各科が協力してすべての専門医が診療にあたるシステム、そんな場が教育においても優れていると考える。

それには、それを横断的に総合する部門が必要である。それが救急部門である。

今日、救急に関わる医師、看護師、のみならず搬送業務に関わる救急隊員、救急に関わるすべての人が一つになってことにあたる体制が社会の要請になっている。救急医学教育は救急専従医だけでも出来ないし、各科専門医だけでもできない。救急に関わるすべての協力が必要である。教育も然りである。現状救急教育不足が指導医不足を招き、ひいては、救急医療機関の救急担当医の確保を難しくしている。悪循環を繰り返しているように思える。

時代と共に変化する救急需要に応じられるべき教育・人材の育成が差し迫った緊急の課題としてとめられている。



## 最終講義

内科学 教授 勝 健一

本年3月末をもって定年を迎えられた内科学・勝 健一教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成19年2月14日（水）14:00～15:00

場 所：臨床第1講堂

演 題：『食育と老年医学』



小生が老年医学を目指して入局した東京医科歯科大学第3内科では動物を用いた動脈硬化の治療実験が行われていた。非病死1025体の大動脈重量を測定し30代まで軽度の増加を、40歳～60歳に急速に重量が増加すること、脳底のウイルス環動脈硬化について日本人（1,033人）と北米人（5,033人）の10～90歳を対象に検討を行い、脳底動脈は日本人が重く、心臓の動脈や大動脈は北米人が早く進んでいたことから、日本人の「脳卒中の成因」としての特異性を発表していた。小生はウサギによる動脈硬化作成における動脈硬化治療実験と加齢にともない進行する慢性胃炎の化生腸上皮の栄養吸収に関する研究をした。

老年者と成人との医療の相違について2000年前にヒポクラテスがすでに述べている。わが国の老年医学は1954年に始まったが、最近では臨床医学として衰退の兆しすら見られている。

小生はウサギを1%コレステロール含有飼料で15週間飼育して動脈硬化を作成し、またヒトの加齢と性差に対応した大動脈粥状硬化の実験を行った。この研究には600羽以上の家兎と100頭を越すアカゲザルに協力してもらった。

結果：血清コレステロール値が約2000mg/dl近くに上昇しても大動脈粥状硬化面積は20%～95%の個体差があった。動脈硬化を炎症とする考えでprednisoloneを投与して粥状硬化の予防を検討したが、大動脈筋層の断裂による解離性動脈瘤が形成されることを発見した。女性は男性よりも動脈硬化は少ないという通念を基に卵巣ホルモンを投与し大動脈粥状硬化形成予防のあることを確認した。

一方、血清コレステロール高値の状態で黄体ホルモンを負荷すると大動脈粥状硬化面積が増加した。しかし卵巣ホルモンと黄体ホルモンの1週間交互投与では卵巣ホルモン単独投与との差は無く、ヒトの更年期閉経以後に血管系疾患が増加する疫学に酷似する結果であった。また黄体ホルモン負荷家兎に胃黄色腫と胃粘膜下血管の動脈硬化を認めた。しかしアカゲザルに高脂肪食を1年間与え（コレス値は12ヶ月後雌267.8mg、雄592.9mg）たが、大動脈粥状硬化および冠動脈硬化は明らかでなかった。

心臓血管施設生理部門に出入りしている際に「心臓のペースメーカーは発見された、後は門脈血流のポンプ機能と胃のペースメーカーの発見が残っている」と激励されたことがあった。本学就任後に胃電図を導入した。そして加齢に伴う胃運動機能の低下が明らかになり、高齢者は低温、高温の食物で胃の

## 最終講義 名誉教授称号授与

---

運動機能が低下をすることを発見した。老人の食育の基本的な解決の糸口が見つかったと考えている。

さらに慢性胃炎は加齢に伴い噴門に向かって拡大することが知られている。併発する腸上皮化生の化生細胞は小腸と同様の酵素活性、吸収機能を持つことを確認した。これにより老化に伴う吸収機能の低下を補填する代償的機能が合目的に発現しており、食物の調理を吸収体に近い構造に単純化することで化生上皮による代償的吸収機序が発揮されることが示唆された。

まとめ：わが国人口の25%が65歳以上の高齢者になったと指摘されているにも拘らず、この年代に対する医学が有名無実に近い現状である。小児が大人の小さい固体でないことは衆知の事実である。2000年以上前のヒポクラテスが高齢者の身体は全く異なっているとヒポクラテス全集に記載している。老年医学は今や国民の1/4の人口の健康を担うものとして大きな部分を占めるようになった。加齢に伴う健康を脂質代謝のみで一元的に論じることでは高齢者の医学は存在しないことも実証されつつあると考えている。諸氏がこの領域にチャレンジされることを望んで止まない。



### 名誉教授称号授与

平成19年4月2日(月)午前9時30分から、学長室において、  
3月末日をもって退職されました勝 健一先生、  
富士原 彰先生に、名誉教授の称号が授与されました。



学長室にて：左から富士原名誉教授 植木学長 勝 名誉教授



新任教授（救急医学）紹介

平成19年4月16日から救急医学教室を担当させていただくことになりました。6年前本学に初めて救急医療部が開設され、初代の富士原彰教授が残された業績を引き継ぎながら一步一步発展に繋げて行かねばなりません。その重責に身の引き締まる思いであります。

21年前、三次救急としての役割を担う大阪府三島救命救急センターの立ち上げのために出向いたしましてからこの度の帰学にあたり、大変懐かしい思いとともに変容しつつある大学の姿に戸惑いも感じております。

さて、救急医とはどのように定義されているのでしょうか。残念ながら明確な規定がなされていないように思われます。わが国の救急医療は当初、重症外傷、重症熱傷、重症中毒、院外心停止などに対する集中治療（クリティカルケア）や災害医療、つまり三次救急が主体となり発展してきたことから、救急イコール外傷イコール外科というイメージが強く定着していることは否めません。

重症外傷数の減少、脳心血管疾病救急の増加という社会背景に加え、新臨床研修体制の導入により、プライマリケア（初期救急医療）を主体とする研修が必修となったことから、従来のクリティカルケアの場では初期研修が適切とはいえない面があります。いままで、救急患者の95%を占める初期救急、二次救急を主に担当していた内科系医師あるいは内科的素養を持つ外科系医師が、この部分を担当する必要性が生じてきておりますことをご理解願いたいと思えます。ただ、後期研修のことも考えますと両者のスタイルを経験することが望ましいと考えます。

幸い、本学の救急医療部へは多彩な救急疾病患者あるいは怪我による負傷者が自己来院または搬送されてきておまして、後送各診療科との協力関係も概ね良好で初期研修の場としてよい教育環境を提供している印象を受けております。引き続き協力関係をお願いできれば幸いです。

加えて、教室員が作り上げてきた業績にはすばらしいものがあります。1) 国際ガイドラインに沿った心肺蘇生法を主導的立場で院内・院外に広めてきたこと。2) 院内CPRコールによりemergency medical teamが応援する体制を構築したこと。3) 院内で発生した急性心停止に対する心肺蘇生の評価検証を院内Utstein様式に従った登録作業を行っていること。4) 小児におけるUtstein様式に準じた院外心停止登録作業の解析を始めていること。など、少ない教室員がそれぞれ助け合いながら任務を全うしている姿に感銘を受けました。さらにモチベーションを高め、力を合わせて教室の発展ならびに地域救急医療の向上に努力してゆく所存であります。ご指導ご鞭撻頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



救急医学  
森田 大 教授

昭和21年12月16日生  
 昭和47年3月 大阪医科大学卒業  
 昭和49年5月 天理よろづ相談所病院内科医員  
 昭和50年10月 大阪医科大学第3内科助手  
 昭和60年11月 大阪府三島救命救急センター医師  
 昭和62年1月 大阪府三島救命救急センター副所長  
 平成6年4月 (財)大阪府三島救急医療センター理事  
 平成13年4月 大阪府三島救命救急センター所長  
 平成19年4月 大阪医科大学教授

# 教育機構長に就任して

教育機構長 **大槻 勝紀**



2年前、植木 實先生が学長に就任した際、大学の教育・研究は教育機構、研究機構ならびに大学院を中心として集約的に行うことを、教授会、大講座主任教授会などで説明された。現在、研究機構長は佐野浩一教授から谷川允彦教授にバトンタッチされ、定期的にシンポジウムが企画実行され、着実に研究者のモチベーションの高揚に役立っている。大学院委員長は宮崎瑞夫教授が現在就任されており、昨年度、大学基準協会の認証において指摘された内容について検討が始まり、同時に事務組織を含めた大幅な大学院改革がなされようとしている。一方、教育機構は学生部と教育センターの業務内容がこれまで重複し、機能分化されていなかったため、両者の業務整備に時間を要した経緯から、これまで学長が教育機構長を兼務されてきた。昨年、新講義実習棟4Fに教育センターが設置されたことに伴い、教学部から5名の教育センター課職員が配属された。昨年には教育教授として出口寛文先生が選出され、教育教授室も設置された。そのため新講義実習棟4Fには5名の教学部教育センター課職員と宮本 学教育センター教員および教育機構所属の教育教授が勤務することになり、教育機構の整備が一応終結したことを受けて、本年2月に私が教育機構長に就任することになった。現在、学生部規程、教育センター規程、教育教授規程および教育機構規程間の整合性を諮り、それぞれの業務を明確にするための準備を行っている。私の構想としては、学生部は学生生活支援センター(案)に名称を変更し、以前の学生生活委員会としての機能に特化し、進級および卒業判定には直接には関わらない。教育センターは以前の教務委員会としての機能し、主として教育の実務を行う。教育機構は以前の学生部に相当し、両者を統合し学生生活および教育全般に関する業務を行い、教育評価など教授会での審議に必要な資料をとりまとめる。しかし目まぐるしい医学教育の改革(例えばPBLやOSCEの導入、CBTの実施など)に対応するためには、従来の教員からなる教務委員会では対応できないため、専任の教職員を有する現在の教育センターが設置された。そのため教育センターの業務は単に教育の実務だけでなく、現在行われている医学教育に関する企画立案(例えば各種のFD)をも担う。学生生活支援センター(案)は教育環境の整備、奨学金貸与あるいは給付学生の決定および心のケアや就学の悩みを持つ学生と保護者への指導などを行うが、最近では心の病を抱えたりあるいは学生生活に馴染めない学生が増加してきている。また大学基準協会の認証で指摘されたように、今後、学生生活支援センター(案)は様々な悩みを持つ学生や保護者へのきめ細やかなサービスを行う目的で、全学年において学年担任制などのシステムの整備が必要である。教育教授は教育機構で、将来にわたる教育の企画立案や国からの教育に関する公募に対して積極的に取り組み、必要なプロジェクトを組むことができる。また卒前卒後教育をスムーズに行うため、関連部署と協力して重要なパイプ役を演じることも重要な業務である。教育機構は学生生活支援センター(案)と教育センターの業務をとりまとめ、進級や卒業判定に関する教育評価を行う。さらに入試、教育評価、国試などに関する様々な統計資料を年報として発刊することが急務である。医師国家試験合格率も大学のブランド力を左右する重要な指標であるため、今後、教育機構においても何らかの国試対策を講じていく必要がある。以上、現在私が考えている教育機構の概要を述べた。

今後、教育機構として二つのセンターが効率的に実務を遂行し、国からの公募に対して全学的に取り組めるような組織作りを行っていきたいと思いますので、教職員の皆様方からのご協力ならびにご支援の程、宜しく願いいたします。

# 規程関係

## 規程制定

規程が次のとおり制定されました

### 学校法人大阪医科大学危機管理に関する基本規程

#### (目的)

**第1条** この規程は、学校法人大阪医科大学（以下「法人」という。）において発生し、または発生することが予想される様々な事象に伴う危機を未然に防止するとともに、危機に迅速かつ的確に対処するための基本的事項を定めることにより、本法人の役員、教職員、学生、患者及び本法人関係者（以下「教職員等」という。）並びに近隣住民等の安全確保を図るとともに、本法人の社会的責任を果たすことを目的とする。

#### (危機管理の対象)

**第2条** この規程に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）は、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 教育・研究・診療活動の遂行に重大な支障のある事象
- (2) 教職員等及び近隣住民等の安全に関わる重大な事象
- (3) 施設管理上の重大な事象
- (4) 社会的影響の大きな事象
- (5) 本法人に対する社会的信頼を損なう事象
- (6) その他、前各号に準ずる事象であって、組織的・集中的に対処することが必要な事象

#### (危機管理の組織)

**第3条** 本法人は、第2条に掲げる危機事象に対応するための組織を、常時または臨時に設置する。

#### (危機管理部門責任者)

**第4条** 理事長の下に危機管理部門責任者（以下「部門責任者」という。）を置く。

2 部門責任者は、理事長の指揮の下に、対処が必要な危機管理に対応する。

3 部門責任者は、次に掲げる者をもって充てる。

- (1) コンプライアンス担当理事
- (2) 学長
- (3) 看護専門学校長
- (4) 病院長
- (5) 教育機構長
- (6) 研究機構長
- (7) 総務部長
- (8) その他、理事長が指名する者

## 規程関係

---

### (危機に関する通報等)

- 第5条** 教職員等は、緊急に対処すべき危機事象が発生したまたは発生するおそれがあることを発見したときは、当該危機事象に関連する部門責任者に迅速に報告するものとし、情報の伝達が滞ることのないように努めなければならない。
- 2 部門責任者は、前項の通報を受けまたは自らが危機事象を察知したときは、その状況を確認の上、直ちに理事長に報告するとともに、必要な措置を講じなければならない。
  - 3 理事長は、前項の報告を受けたときは、当該危機事象の対処方針等を部門責任者と協議し決定するものとする。

### (対策本部の設置)

- 第6条** 理事長は、第5条第3項の決定において、危機事象の対処のために必要と判断する場合は、速やかに対策本部（以下「本部」という。）を設置する。
- 2 本部は、本部長、副本部長及び本部長員で構成する。
  - 3 本部長は、各部門責任者をもって充て、本部の業務を統括する。
  - 4 副本部長は本部長が指名し、本部長を補佐する。
  - 5 本部は、危機事象の終了の確認されたとき解散する。

### (対策本部の権限)

- 第7条** 本部は、本部長の指揮の下に、危機事象に迅速に対処しなければならない。
- 2 教職員等は、本部の指揮に従わなければならない。
  - 3 本部は、その事案処理に当たり、理事会、担当理事運営会議、大講座主任教授会、教授会、病院運営会議等（以下「理事会等」という。）の審議を含め、本法人の諸規程等により必要とされる手続を省略することができる。
  - 4 前項の場合、本部は事案の対処経過及び終了について、理事会に報告すると共に、所定の審議または手続を必要とした会議等に報告し、事後了承を得なければならない。

### (雑 則)

- 第8条** この規程に定めるものの他、防災等に関し必要な規程・マニュアル等は別に定める。

### (規程の改廃)

- 第9条** この規程の改廃は、コンプライアンス委員会の議を経て、理事会で行う。

### 附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。



**規程改正**

規程が次のとおり改正されました

**学校法人大阪医科大学退職金規程（関係条文新旧対照表）**

新	旧
<p><b>第2条</b> 退職金は勤続2年以上の者に支給するものとし、その額は採用時期により、別表(1)・別表(2)による月数をその者の本給月額に乗じて得た額とする。</p>	<p><b>第2条</b> 退職金は勤続2年以上の者に支給するものとし、その額は別表2による月数をその者の本給月額に乗じて得た額とする。</p>
<p><b>附 則</b> この改正は、平成19年4月1日から施行する。</p>	

**別表(1)**

この表は平成19年3月31日以前に採用された職員に適用する。

退職金一覧表	
在職年数	支給月数
2年	2.00
3年	3.00
4年	4.00
5年	5.35
6年	6.42
7年	7.49
8年	8.56
9年	9.63
10年	11.00
11年	12.10
12年	13.20
13年	14.30
14年	15.40
15年	17.25
16年	18.40
17年	19.55
18年	20.70
19年	21.85
20年	25.00
21年	26.25
22年	27.50
23年	28.75
24年	30.00
25年	35.00

**別表(2)**

この表は平成19年4月1日以降に採用された職員に適用する。

退職金一覧表	
在職年数	支給月数
2年	1.20
3年	2.00
4年	2.80
5年	3.60
6年	4.40
7年	5.20
8年	6.00
9年	6.80
10年	7.60
11年	9.13
12年	10.67
13年	12.20
14年	13.73
15年	15.26
16年	16.79
17年	18.32
18年	19.85
19年	21.38
20年	22.91
21年	24.56
22年	26.21
23年	27.86
24年	29.51
25年	35.00

# 規程関係

26年	36.40	26年	36.40
27年	37.80	27年	37.80
28年	39.20	28年	39.20
29年	40.60	29年	40.60
30年	42.00	30年	42.00
31年	42.47	31年	42.47
32年	43.84	32年	43.84
33年	45.21	33年	45.21
34年	46.58	34年	46.58
35年	47.95	35年	47.95
36年	48.60	36年	48.60
37年	49.95	37年	49.95
38年	51.50	38年	51.50
39年	52.65	39年	52.65
40年	52.65	40年	52.65
以下同じ		以下同じ	

## 学校法人大阪医科大学退職年金規程（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>(遺族の範囲及び順位)</p> <p><b>第17条</b> 遺族年金を受けることができる遺族（以下「遺族年金受給資格者」という。）は、本人の配偶者とし、配偶者のない場合は満18才未満の本人の子とし、子も持たない場合は親とし、それぞれ本人の死亡の当時その収入により生計を維持していた者とする。ただし胎児は本人の死亡の当時その収入により生計を維持していた子とみなす。</p> <p><b>2 同順位の遺族が複数の場合は、年金額を人数で等分に分割して支給する。</b></p> <p><b>3</b> 遺族年金受給資格者が次の各号に該当するに至った時は、遺族年金の給付を行なわない。</p> <p>(1) 死亡したとき</p> <p>(2) 婚姻したとき</p> <p>(3) 本人死亡当時の戸籍より離籍したとき</p> <p>(4) 満18才未満の子が満18才に達したとき</p>	<p>(遺族の範囲及び順位)</p> <p><b>第17条</b> 遺族年金を受けることができる遺族（以下遺族年金受給資格者という）は、本人の配偶者とし、配偶者のない場合は満18才未満の本人の子とし、子も持たない場合は親とし、それぞれ本人の死亡の当時その収入により生計を維持していた者とする。ただし胎児は本人の死亡の当時その収入により生計を維持していた子とみなす。</p> <p>(新 設)</p> <p><b>2</b> 遺族年金受給資格者が次の各号に該当するに至った時は、遺族年金の給付を行なわない。</p> <p>(1) 死亡したとき</p> <p>(2) 婚姻したとき</p> <p>(3) 本人死亡当時の戸籍より離籍したとき</p> <p>(4) 満18才未満の子が満18才に達したとき</p>
<p>(適用)</p> <p><b>第26条</b> この規程は、平成19年4月1日以降に新たに採用された職員には適用しない。</p>	<p>(新 設)</p>
<p><b>附 則</b></p> <p>この改正は、平成19年4月1日から施行する。</p>	

大阪医科大学附属看護専門学校学則（関係条文新旧対照表）

新	旧																												
<p><b>（教職員組織）</b>  <b>第11条</b> 本校に次の教職員をおく。</p> <p>(1) 学校長 1名            (削除)            (削除)            (削除)</p> <p>(2) 専任教員 12名以上</p> <p>(3) 兼任教員 若干名            (削除)</p> <p>(4) 事務職員 <u>1名以上</u>            (削除)</p> <p>(5) 校医 1名            (削除)</p> <p>(6) その他 若干名（学校長が必要と認め            た者）</p> <p>2 学校長は、校務を総括し、所属教職員を監            督する。            (削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p><b>3 専任教員の教務に従事する事項は別に定め            る。</b></p> <p><b>4 事務長は、学校長を補佐し事務全般を掌る。</b></p> <p><b>5 その他の職員は、校務を処理する。</b></p>	<p><b>（教職員組織）</b>  <b>第11条</b> 本校に次の教職員をおく。</p> <p>(1) 学校長 1名</p> <p>(2) <u>副学校長 1名</u></p> <p>(3) <u>教務課長 1名</u></p> <p>(4) <u>教務主任 1名以上</u></p> <p>(5) 専任教員 12名以上</p> <p>(6) 兼任教員 若干名</p> <p>(7) <u>事務長 1名</u></p> <p>(8) <u>事務職員 2名以上</u></p> <p>(9) <u>司書 1名</u></p> <p>(10) 校医 1名</p> <p>(11) <u>用務員 2名</u></p> <p>(12) その他 若干名（学校長が必要と認め            た者）</p> <p>2 学校長は、校務を総括し、所属教職員を監            督する。</p> <p><b>3 副学校長は、学校長を補佐し、教務を掌            る。</b></p> <p><b>4 教務課長は、副学校長を補佐し、教務全般            を掌る。</b></p> <p><b>5 教務主任は、当該看護学科の教務を掌る。</b></p> <p><b>6 専任教員は、教務に従事する。</b></p> <p>7 事務長は、学校長を補佐し事務全般を掌る。</p> <p><b>8 その他の職員は、校務を処理する。</b></p>																												
<p><b>第27条</b>            別表 2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>学科名</th> <th>入学 検定料</th> <th>入学金</th> <th>施設 設備費</th> <th>授業料 (年額)</th> <th>実験実習 料(年額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護専 門課程</td> <td>看護 学科</td> <td>25,000</td> <td>300,000</td> <td>40,000</td> <td><u>400,000</u></td> <td>50,000</td> </tr> </tbody> </table>	課程	学科名	入学 検定料	入学金	施設 設備費	授業料 (年額)	実験実習 料(年額)	看護専 門課程	看護 学科	25,000	300,000	40,000	<u>400,000</u>	50,000	<p><b>第27条</b>            別表 2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>学科名</th> <th>入学 検定料</th> <th>入学金</th> <th>施設 設備費</th> <th>授業料 (年額)</th> <th>実験実習 料(年額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護専 門課程</td> <td>看護 学科</td> <td>25,000</td> <td>300,000</td> <td>40,000</td> <td><u>350,000</u></td> <td>50,000</td> </tr> </tbody> </table>	課程	学科名	入学 検定料	入学金	施設 設備費	授業料 (年額)	実験実習 料(年額)	看護専 門課程	看護 学科	25,000	300,000	40,000	<u>350,000</u>	50,000
課程	学科名	入学 検定料	入学金	施設 設備費	授業料 (年額)	実験実習 料(年額)																							
看護専 門課程	看護 学科	25,000	300,000	40,000	<u>400,000</u>	50,000																							
課程	学科名	入学 検定料	入学金	施設 設備費	授業料 (年額)	実験実習 料(年額)																							
看護専 門課程	看護 学科	25,000	300,000	40,000	<u>350,000</u>	50,000																							
<p><b>附 則</b>  <u>この改正は、平成19年4月1日から施行する。</u></p>																													



## 学校教育法改正に伴う教員新職制への移行について

平成19年4月1日に施行された学校教育法および大学設置基準等の改正に伴い、本学における教員の職制を以下の通り変更致しました。

### 変更の内容：職位の名称変更

(変更前)	(変更後)
助教授	准教授
診療助教授	診療准教授
学内講師	講師(准)
助手	助教
助手(任期付)	助教(准)

**実施日：平成19年4月1日**

今後は変更後の名称をご使用下さいますようお願い致します。



新総合棟建設に係る寄付金の応募状況について

平成19年3月31日現在

区分	項目	寄 付 金	
		件数	合計
一般企業		268	289,699,000
関連病院		37	32,460,000
学生保護者関係		21	6,699,100
仁泉会関係		462	83,890,000
白友会関係		35	2,358,000
本法人役員・評議員		51	34,470,000
教職員関係（教職員OB含む）		1,501	80,061,000
その他		15	4,595,393
	計	2,390	534,232,493

教職員と仁泉会会員または白友会会員と重なる方については、教職員にカウントしております。

寄付金申込者

平成19年1月1日から3月31日までの間の寄付金入金件数は52件、金額は4,888,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

尚、分割納付されている方については、初回のみ掲載させていただきます。件数については、連名での申し込みがあることや、1回の入金につき1件として数えていることなどから、ご芳名掲載数と一致しないことがありますのでご了承ください。 (順不同・敬称略)

一般企業 4件 金額 550,000円

株式会社第一食品 その他分割納付3件

関連病院関係 2件 金額 600,000円

医療法人河端病院 医療法人医修会新河端病院

仁泉会関係 12件 金額 3,170,000円

江村 正信 貞岡 達也 大植 更二 大植 鉄也 大植 慎也 大植 紀子

西中 弘 中川 俊一 橋本 克孝 藤田 邦彦 木曾 昭彦 大藪 博

渡辺 信治 その他分割納付1件

宮本産婦人科医院

本法人役員・評議員関係 1件 金額 100,000円

木田喜代江

教職員関係（教職員OB含む） 32件 金額 368,000円

植永 毅 藤川 光昭 その他分割納付10件

その他 1件 金額 100,000円

神谷 正

# 寄付金報告

## 看護専門学校新校舎建設に係る寄付金の応募状況について

平成19年3月31日現在

( 上段：件数  
下段：金額 )

納付月	旧制看護婦学校	新制看護婦学校	准看護婦学校	産婆講習会	二年課程全日制	二年課程定時制	三年課程	助産婦学校	特別会員	保護者	非会員	顧問	企業等	寄付金額計	備考
計	13	17	20	0	161	63	134	3	11	78	52	2	6	560	
	1,580,000	3,510,000	410,000	0	4,995,000	2,960,000	9,920,000	650,000	590,000	1,900,000	3,205,000	400,000	3,400,000	33,520,000	

複数の学校制度に所属していた場合は原則として白友会会員番号に登録している学校に計上しております。

### 寄付金申込者

平成19年1月1日から3月31日までの間の寄付金入金件数は、2件、金額は100,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

( 順不同・敬称略 )

成松 正治 吉田 さとみ

## 「旧別館」保存事業・「歴史資料館」設置に係る寄付金の応募状況について

### 寄付金申込者

平成19年1月1日から3月31日までの間の寄付金入金件数は、10件、金額は2,095,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
尚、募集当初から平成19年3月31日までの間の寄付金入金件数は113件、金額は39,967,540円です。

( 順不同・敬称略 )

大阪医科大学医師会

大黒恵理子 廣瀬 潤 河野 公一 永井 利昭 木下 光雄 城戸 滝枝  
小川 和義 榮樂 周子 岩倉 研二

## 新学生講義実習棟建設のための寄付金

### 寄付金申込者

平成19年1月1日から3月31日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は50,000円です。  
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。  
尚、募集当初から平成19年3月31日までの間の寄付金入金件数は31件、金額は214,716,000円です。

( 順不同・敬称略 )

岩本 暢泰

### ご芳名の掲載について

従来、ご寄付を頂いた方については、感謝の意を表するため、ご芳名を掲載させて頂いておりましたが、個人情報保護に関する法律の施行に伴い、掲載を希望されない方につきましては、掲載を割愛致しております。掲載をご希望されない方は大阪医科大学財務部会計課（直通：072 - 684 - 6235）までご一報ください。

# 平成19年度 事業計画について

理事長 國澤 隆雄

## 1. 事業計画立案の方針

平成16年度から開始した本学の建物新築ならびに病院の改修工事は、設備金額が総額100億円にも達する投資となりました。勿論、その投資についての必要性、そして建築した建物を今後効果的に活用すること、また既存建物を含めたスペースマネージメントについて費用対効果を検討しつつ続行することは、本学総意の認識であります。

しかし、財政的には短期間にかなりの負担を強いたことも事実で、その結果、本学の財務指標も不安定化の傾向にあり、安定した収支状況を保つには相応の努力を要します。加えて、将来開設を計画している大学看護学科は、文部科学省が基準とする負債率と乖離する場合は、設置不可能になる可能性が高くなります。そこで今後の大学看護学科設置事業を円滑に進めるためには、その負債率を減少させることを前提とした事業運営を考えざるを得ない状況にあります。

また、今般の大学基準協会認証の評価結果におきましても、財務面で累積消費支出超過額を速やかに改善するよう勧告を受けています。

以上のような背景を勘案しますと、財務面からは、ここ数年は投資金額を極力押えることによって、借入れ等の負債額の増加を抑制しなければなりません。本年度は、本法人の経営を継続維持できる財政基盤の磐石化を図るために、投資を大幅に抑制し、経費の削減を意識した事業計画を立案するものです。

各部門の事業計画は、まず事務部門では「手順の見直しによる業務集約化」「担当部署の職務目標の明確化」「管理者教育の強化」を行い、柔軟性のある組織へ移行することを事業計画の柱とします。

教育関係の事業計画としては、学校教育法改正に伴う「教員組織並びにファカルティ・デベロップメントの充実」「大学院再整備」「看護学校の経営改善」が最重要課題となります。

病院関係の事業計画としては、まず「療養環境の整備」があり、この2年間で進めてきた病棟・外来改修工事の仕上げを行います。次に「病院機能の強化」では、診療科の再編、機器設備の充実、安全・危機管理の強化を実施します。更に「病院運営の適正化」を継続・更改するために、7対1看護を堅持し、また病床・病棟数の見直し、診療科別・疾患別コスト管理、ジェネリック薬品の導入などを行います。

また将来的に実施する「大学・病院建物整備」「電子カルテ導入」「サテライト施設構想」などの計画は、その実行に向け、検討内容の精度を上げて、実現・維持可能な全体構想として構築します。

## 2. 計画段階事業

### (1) 長期建物計画基本構想

本学は平成16年度に都市再生緊急整備事業の指定を受け、地域の理解を得たうえで、引き続き高槻に拠点を置くことを決定しています。その指定に基づき、現在校舎や病棟を建築し、全体的なスペースマネジメントを行っているところであります。

また国の大学等施設緊急整備計画の決定、および中心市街地活性化法の施行、それを受けての高槻市議会策定の新基本計画等を基に、本学としての「長期建物計画基本構想」を立案して、大学ならびに病院建物の将来構想図を完成させます。

### (2) 看護学教育4年制化準備の着手

大学看護学科設置準備室を開設し、設置形態別のメリットとデメリットを再度確認し、設置作業を具体化します。

### (3) 電子カルテの導入計画

プロジェクトチームを立ち上げて、規模形態別のメリットとデメリットを認識し、将来の本格導入を目標に、その具体的構想の検討を開始します。

### (4) サテライト施設構想

サテライト施設としては、診療所をはじめとする様々な施設を念頭に置いて、総合的に検討します。特に、JR高槻駅前の建物については、様々な観点からその必要性について改めて検討し直します。近隣病院との関係に配慮し、完成時にはどのような診療科や関連施設を設置するか、またその運用方法、収支の見込みなどを具体的に検討し、中でも採算性について最重要視し、その計画の妥当性と必要性を見極めます。

加えて「総合画像センター」の建設も具体的に検討していくこととしますが、本センターの設置は、長期建物計画基本構想にも絡むものであり、今後本学のグランドデザインを考える中で検討します。

## 3. 新規実施事業

### (1) 創立80周年記念事業の実施

創立80年という記念すべき節目を迎えるにあたり、大学、病院、看護専門学校をはじめ、各組織で80周年記念行事を企画することにより、本法人の設立理念の根底にあるものを、それぞれに認識する機会を作ります。特に、本法人を支えていただいた地域ならびにその人達へ感謝の意を表せる事業や行事を実施します。

### (2) 事務系ITシステム

平成18年度よりシステム構築を開始しました事務系ITシステムの運用が、いよいよ本年4月から本格稼働します。また引き続き、他部署とのシステム統合に向けた次期計画立案に必要な情報を整理し、第2次のステップアップとして、データ分析や資産管理等の更に高度なシステム機能を付加するべく、その体制を構築します。

### (3) 病院の改修工事と基本整備

大型工事は行わないものの、「長期建物計画基本構想」を視野に入れて、「病院3号館」「外来化療センター」などの改修工事を実施します。

また「救急部の整備」「人間ドック」「小児科外来の整備」なども、本院の運営体制を勘案のうえ整備していく予定です。

#### 4. 予算編成の基本方針

##### (1) 基本的な考え方

平成16年度から平成17年度の2ヶ年に亘る投資金額は100億円近くに達し、本学の財政としては短期間にかなりの負担となりました。その結果、本学の財務指標も悪化の傾向を辿ると共に、将来の資金計画を立案しますと、安定した収支状況を保つには相応の努力を要します。

更に平成22年度を目途とする新学部設置事業を円滑に進めるためにも、負債率を改善させます。

加えて、昨年11月に財団法人大学基準協会の認証で受けました累積消費支出超過額の改善義務と年度毎の改善状況報告の要請という勧告に応える必要があります。

しかしながら、現状の医療政策や社会環境などを勘案しますと、本年度に収入増加を見込むことは極めて難しい状況にあります。勿論、医療収入、補助金、寄附金など、最大限の努力を払うことが、各部門の重要な課題であることは言を待ちません。

当面は、予備費を執行しない場合に帰属収支差額がマイナスにならないことを目指します。予備費は、厳に特別な場合の費用であることを銘記して予算に計上します。

以上のような背景を勘案し、本法人を今後とも末永く維持するためにも、財政基盤の磐石化を目指し、本年度は投資を大幅に抑制し、経費を削減すると共に、収入面での最大化を図るものとします。

##### (2) 収入面

学生生徒等納付金は、医学科在籍学生数の増加と看護専門学校の3年課程一本化（定員増）に伴う収入増を見込みます。

本学の収入の70%以上を占める病院の医療収入は、平成18年度は診療報酬のマイナス改訂がありましたが、平成19年度においては7対1看護体制の維持や新旧病棟の稼動増などにより前年度より収入増加を見込みます。ただし、診療・看護・運用体制の大きな変化がないと予想し、前年度に比べての大幅な収入増は難しく、平成18年度決算見込みより2億円増の計画とします。

補助金については、その助成の趣旨等をよく勘案し、可能な限り申請できるように万全の体制を作りますが、特に今年度は経常補助金の配点減による減収が見込まれますので、組織変更、損益分岐点の検討、新規補助金の獲得などにより、減収を最小限に圧縮します。

寄附金は、従来の看護専門学校新校舎建設、病院7号館建設及びP A 会館建設募金を年度末で打ち切り、新たに登録有形文化財別館修復及び歴史資料館整備事業を含む本学創立80周年記念事業の一環として、平成19年度は1億5千万円を目標に寄附を募り、来年度以降も引

## 平成19年度 事業計画

き続き実施します。

資産運用については、安全で高利回りの商品にシフトすることにより、年間運用利回り2%を達成します。

借入金は、平成19年度は大型の投資計画がないことと、大学看護学科の設置認可を視野に入れ、新規借り入れはしないこととします。

### (3) 支出面

経費の削減は財政基盤を磐石化させるため、本年度も着実に実施します。経費削減のターゲットとしては、一つは物品の購入と委託費とし、物品費ならびに委託費ともに前年度比5%以上の削減を目指します。

人件費については、現員に対する人員増なしを前提としますが、業務委託費を含めた実質人件費の総額を削減します。ただし、看護師ならびにレジデントの人数については適正数の検討を行います。委託費に含まれる派遣等の役務費は前年度比5%以上減をガイドラインとします。

医療経費については、医薬品、医療消耗品などの効率的使用に努めると共に、ジェネリック薬品への移行を含めて、医療経費率を31%以下に抑制します。

研究費を除く経常経費については、平成17年度実績額の5%減とします。

講座(教室)研究費については、平成19年度から定額配分方式に教室構成員を加味して配分します。なお講座(教室)研究費の総額は平成18年度予算額以下とします。

予備費については、従来通り3億円の計上とします。

## 平成19年度事業計画一覧

部 署	新規実施事業	計画段階事業
法 人 本 部	創立80周年記念行事実施 事務系ITシステム統合 (第2ステップ)	長期建物計画基本構想 土地運用計画立案 サテライト施設構想 大学看護学科設立準備
大 学 ・ 大 学 院	ファカルティ・デベロップメントの充実 大学院の再整備 教員評価制度 研究組織の確立 教員組織の再編	第2 総合研究棟の構想
附 属 病 院	病棟改修と療養環境の整備 安全・危機管理の強化 医療連携室強化 ジェネリック医薬品の積極的導入 委託・派遣業務の全面見直し	電子カルテ導入計画 診療科の再編 病床・病棟数の再編 収支管理・予算管理
看 護 専 門 学 校	財政・経営の改善	看護学科4年制化準備計画

## 平成19年度 予算について

### <平成19年度予算の編成方針について>

平成19年度予算は、本年3月29日の評議員会の審議を経て、同日開催の理事会で承認決定されました。

平成19年度予算の編成方針は、財政基盤の確立に向けた目標として単年度の帰属収支差額を収入超過（5億円の黒字）とする事および消費収支のバランスをとり極端に減少した繰越支払資金として50億円（月間支払資金の約3カ月分）を確保する事を最終目標としました。この目標を達成するため、新規の大型投資をせず、設備投資は重要性、緊急性、収益性等を勘案し必要最小限にとどめました。経常的経費については、研究費を除き、前年度決算額の5%以上を減じた圧縮予算を編成しました。

なお、健全な予算編成指針として帰属収支差額5億円の黒字を確保することについては、硬直化した財政を単年度の予算編成で解消することはできず、本年度予算もこの目標を達成できない内容となっております。

### <資金収支予算>

#### (1)資金収入の部

##### 学生生徒等納付金収入

前年度予算対比で約5382万円の増収を見込んでおります。

学部学生の学納金については、平成15年度から引続きスライド制を凍結しておりますが医学科在籍学生数の増加と看護専門学校3年課程一本化に伴う増収を見込んでおります。

##### 手数料収入

大学入試センター試験及び一般入試（地方入試会場含む）の受験者の増加による入学検定料の増収を見込んでおります。

##### 寄付金収入

大型のプロジェクトが終了し、新たに登録有形文化財別館修復及び歴史資料館整備事業を含む本学創立80周年記念事業の一環として1億5000万円を目標に寄付を募ります。

##### 補助金収入

前年度予算対比で約1600万円の増収を見込んでおります。補助金の趣旨等を勘案し、補助調整係数をベースとした損益分岐の検討など積極的な補助申請を行います。経常費補助金の配点減による減収が予想されますが、新規補助金の獲得などにより減収を最小限に圧縮します。

##### 資産運用収入

前年度予算対比で約4990万円の増収を見込んでおります。安全で高利回りの商品にシフトすることにより、年間運用利回り2%を達成するなど受取利息の増を見込んでおります。

##### 資産売却収入

早期償還条件付ユーロ円建債15億円満期分を計上しております。この同額を借入金返済に充当する予定です。

##### 事業収入

前年度予算対比で約7880万円の増収を見込んでおります。新規の診療分野の拡大策として治験に

# 平成19年度 収支予算

---

よる収入の増加を見込んでおります。

## 医療収入

前年度の予算編成では、診療報酬改定による看護職員等の配置に高い点数配分があるため、看護体制の強化による増収を前提とした目標予算でありました。平成19年度予算編成は、診療報酬改定がなく、患者数、単価、病床稼働率を基に実現可能性の高い編成を行い、平成18年度決算見込額より2億円の増収を見込んだ予算といたしました。

平均在院日数の短縮により入院単価は上昇し、新入院患者を着実に積み上げることにより病床利用率も向上してきました。今後も、7:1看護の堅持と在院日数短縮を持続すれば、単価上昇は引き続き維持され、平成19年度予算は十分達成が可能と思われます。

## 雑収入

前年度予算対比で約7430万円の増収を見込んでおります。定年退職者の対前年度増による退職金財団からの交付金の増収が1つの要因となっております。

## 借入金等収入

大型の投資計画がなく新たな長期借入金の予定はありません。保健学部設置事業を視野に入れた負債率圧縮の一環でもあります。

## (2)資金支出の部

### 人件費支出

前年度予算対比で約1億4936万円の支出減を見込んでおります。これは、看護師及びレジデントの増員はあるものの人件費の実質伸び率を昨年度より低く見込んだものです。経常的な費用として最も大きな比率である人件費の圧縮は、本学にとって急務であります。業務委託を含めた実質人件費総額を抑制するため、アウトソーシング業務の対前年度比5%以上の削減をガイドラインとしました。

### 教育研究経費支出

前年度予算対比で約4億4020万円の支出減を見込んでおります。医療経費については、医薬品、医療消耗品などの効率的使用やジェネリック薬品への移行を含め医療収入の31%に抑制しました。修繕費については昨年度に引き続き必要最低限のもののみ予算措置しました。

### 管理経費支出

前年度予算対比で約1820万円の支出増を見込んでおります。看護師、臨床研修医賃貸マンションに係わる新たな経費を予算措置しております。施設、設備の整備に伴う管理経費の増加は帰属収入の8%に達しています。

### 借入金等利息支出

借入金等の返済により、前年度予算対比で約2260万円の減を見込んでおります

### 借入金等返済支出

早期償還条件付ユーロ円建債の借入金返済があります。前年度予算対比約15億1090万円の増を見込んでおります。

### 施設関係支出

平成16年度から開始した本学の建物新築並びに病院の改修工事として昨年度には既存病棟、外来設備、病院跡地設備費、歴史資料館設置などを予算計上していましたが、本年度予算では大型



投資がなく前年度予算対比で約13億2896万円の支出減となっております。

設備関係支出

前年度予算対比で約1380万円の増加を見込んでおります。入院患者サービスの一環として温冷配膳車の予算を計上しております。

資産運用支出

前年度予算対比で約1億3990万円の減を見込んでおります。昨年度はさわらぎキャンパスの一部校地売却額を設備拡充引当資産繰入金として計上しておりました。本年度は安全で高利回りの商品購入のため有価証券購入予算を計上し、年間運用利回り2%の資産運用を行う計画です。

繰越支払資金

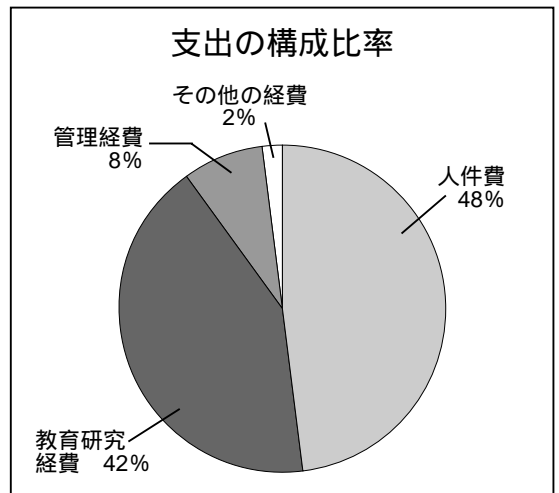
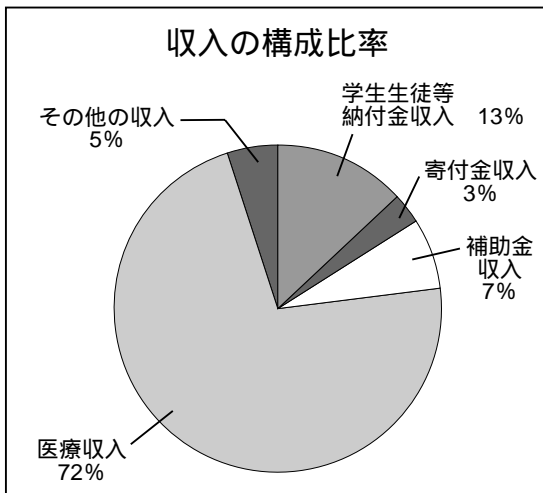
平成16年度、17年度と続いた大型の設備投資のため繰越支払資金は激減しました。平成18年度も人件費及び経常費の増加により繰越支払資金が減少することが予想されましたので、平成19年度予算はかなりの緊縮予算を編成しましたが、最低限の支払資金「50億円」の確保はできませんでした。法人の経営を維持継続できる財政基盤の磐石化を図るために投資を大幅に抑制し経費の削減を意識した事業計画が求められます。

<消費収支予算>

資産を増加させる収入（帰属収入）と資産を減少させる支出（消費支出）の差引額（帰属収支差額）は、法人が黒字か赤字かを判断する目安となります。

帰属収支差額については、プラス5億円を目標に予算の編成作業を行いました。収入増が余り期待できない上、固定費が増加して最終的には収支（予備費を除く）がゼロとなる予算を編成せざるを得ないことになりました。

今後、本学の財政基盤を安定させるために収入の増加及び支出削減に最大限の努力を行い、帰属収支差額プラスの目標を必達すること並びに累積消費支出超過額を速やかに改善できるようにすることが不可欠であります。



# 平成19年度 収支予算

## 平成19年度 収支予算

### 消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成19年度 予算額	平成18年度 予算額	増減)	科 目	平成19年度 予算額	平成18年度 予算額	増減)
学生生徒等納付金収入	3,454,130	3,400,310	53,820	人 件 費	13,160,608	13,252,490	91,882
手数料収入	108,585	99,175	9,410	教育研究経費	11,429,425	12,043,703	614,278
寄付金収入	837,390	652,985	184,405	管理経費	2,215,136	2,191,922	23,214
補助金収入	1,767,869	1,751,817	16,052	借入金等利息	105,792	128,394	22,602
資産運用収入	430,589	380,643	49,946	資産処分差額	30,100	77,548	47,448
資産売却差額	0	387,288	387,288	徴収不能額	12,140	10,800	1,340
事業収入	433,657	354,866	78,791	予 備 費	300,000	300,000	0
医療収入	19,485,255	19,935,135	449,880				
雑収入	437,717	363,408	74,309	消費支出の部合計	27,253,201	28,004,857	751,656
帰属収入合計	26,955,192	27,325,627	370,435				
基本金組入額合計	1,889,291	3,145,591	1,256,300				
消費収入の部合計	25,065,901	24,180,036	885,865	当年度消費支出超過額	2,187,300	3,824,821	1,637,521

### 資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成19年度 予算額	平成18年度 予算額	増減)	科 目	平成19年度 予算額	平成18年度 予算額	増減)
学生生徒等納付金収入	3,454,130	3,400,310	53,820	人 件 費	13,197,676	13,347,038	149,362
手数料収入	108,585	99,175	9,410	教育研究経費	10,131,425	10,571,630	440,205
寄付金収入	818,000	633,382	184,618	管理経費	2,057,136	2,038,938	18,198
補助金収入	1,767,869	1,751,817	16,052	借入金等利息支出	105,792	128,394	22,602
資産運用収入	430,589	380,643	49,946	借入金等返済支出	2,011,400	500,504	1,510,896
資産売却収入	1,500,000	394,044	1,105,956	施設関係支出	564,497	1,893,459	1,328,962
事業収入	433,657	354,866	78,791	設備関係支出	870,052	856,238	13,814
医療収入	19,485,255	19,935,135	449,880	資産運用支出	551,060	690,964	139,904
雑収入	437,717	363,408	74,309	その他の支出	3,429,349	3,654,854	225,505
借入金等収入	0	1,450,000	1,450,000	予 備 費	300,000	300,000	0
前受金収入	647,177	647,684	507				
その他の収入	4,567,062	5,021,472	454,410				
資金収入調整勘定	4,117,180	4,052,170	65,010	資金支出調整勘定	2,647,404	3,091,192	443,788
前年度繰越支払資金	4,327,000	4,363,000	36,000	次年度繰越支払資金	3,288,878	3,851,939	563,061
収入の部合計	33,859,861	34,742,766	882,905	支出の部合計	33,859,861	34,742,766	882,905

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

# 科学研究費補助金交付内定について

## 平成19年度科学研究費補助金交付内定について

平成18年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した191件の新規研究計画に対し新規33件、継続30件の合計63件、総額96,590千円の内定がありました。(平成19年5月1日現在)

研究種目	応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
基盤研究(A)	1	0	1	1
基盤研究(B)	11	2	2	4
基盤研究(C)	106	23	16	39
萌芽研究	24	0	2	2
若手研究(スタートアップ)	(注1)	(注2)	2	2
若手研究(B)	49	8	7	15
合計	191	33	30	63

(注1): 原稿作成時点で公募中 (注2): 原稿作成時点で未定、8月下旬内定予定

(注) 内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

### 基盤研究(A)一般

(単位: 千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
胃癌化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性を検証する多施設共同比較臨床試験	一般・消化器外科学教授	谷川 允彦	*	700	0	0	0

### 基盤研究(B)一般

(研究課題番号順)

(単位: 千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
新免疫寛容導入法の確立とメトロン遺伝子ゲノム導入による移植腎永久生着の試み	泌尿器科学准教授	東 治人	*	2,700	4,000	4,100	0
プロモーターマイクロアレイを用いた卵巣癌の薬剤耐性化遺伝子の解析	産婦人科学教授	大道 正英	*	2,200	2,200	0	0
高性能RFHR・2D・PAGEのヒトプロテオミクス～抗癌剤抵抗性蛋白を探る	研究機構教授	和田 明		6,600	4,100	4,300	0
悪性脳腫瘍に対する硼素中性子捕捉療法の標準治療化と新規開発	脳神経外科学准教授	宮武 伸一		8,800	5,800	0	0

### 基盤研究(C)一般

(研究課題番号順)

(単位: 千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
糖尿病モデルマウスの合併症に伴う過酸化脂質障害に関する研究	小児科学教授	玉井 浩	*	500	0	0	0
ヒト子宮内膜におけるERα転写因子	解剖学教授	大槻 勝紀	*	600	0	0	0
酵素の立体構造に基づくスフィンゴ脂質生合成と分解の制御機構の解明	生化学講師	生城 浩子	*	1,700	0	0	0
抗原性変異インフルエンザウイルス出現の早期発見の決め手	感染対策室准教授	中川 俊正	*	1,600	0	0	0
QT延長症候群原因遺伝子変異の免疫機能に及ぼす影響に関する研究	法医学准教授	西尾 元	*	500	0	0	0
単純ヘルペス脳炎の発症における免疫学的検討と炎症機転制御による神経組織保護の研究	内科学非常勤講師	中嶋 秀人	*	800	0	0	0
統合失調症患者におけるサイトカイン遺伝子の単塩基多型解析	神経精神医学教授	米田 博	*	1,100	0	0	0
大腸癌における腫瘍特異的なウイルスベクターの開発と遺伝子治療への展開	一般・消化器外科学非常勤講師	山本 哲久	*	900	0	0	0
包括的遺伝子解析による膵管内腫瘍性病変から膵癌への進展経路の解明	一般・消化器外科学非常勤講師	高折 恭一	*	1,700	0	0	0

# 科学研究費補助金交付内定について

(研究課題番号順)

(単位：千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
膵管内乳頭粘液性腫瘍における分化誘導関連遺伝子の発現解析	一般・消化器外科学 講師(准)	日外 知行	*	600	0	0	0
前立腺癌骨転移責任遺伝子の同定と組換えHSVによる癌ワクチン治療	泌尿器科学 教授	勝岡 洋治	*	1,000	500	700	0
精子形成過程におけるGABAシステムの機能的役割	解剖学 講師(准)	神原 清人	*	1,000	0	0	0
婦人科癌における遺伝子多型解析	産婦人科学 非常勤講師	植田 政嗣	*	1,100	1,100	0	0
ヒト中耳換気粘膜再生 乳突蜂巣粘膜培養細胞の確立	耳鼻咽喉科学 診療准教授	萩森 伸一	*	800	0	0	0
網膜・視神経乳頭循環の自動調節能におけるgap結合の重要性と糖尿病による変化	眼科学 講師	杉山 哲也	*	1,100	1,100	0	0
口腔癌に対する酸素中性子捕捉療法の基礎的ならびに臨床的研究	口腔外科学 教授	島原 政司	*	1,000	0	0	0
ヘレニズム哲学におけるアカデメイアとピュロン派懐疑主義の位置づけとその現代的意義	哲学 教育教授	金山萬里子		1,500	1,000	700	0
酵母における2チオ修飾tRNAと鉄硫黄クラスターへの硫黄分配	生化学 講師	中井 由実		1,900	1,600	0	0
ストレプトコッカスのバイオフィーム感染関連蛋白質ComAの基質認識機構の解明	生化学領域 助教	石井 誠志		1,900	1,100	0	0
ABCトランスポータにおけるNBDエンジンの動作メカニズムの解明	生理学 講師	相馬 義郎		1,100	1,300	1,000	0
蝸牛内リンパ腔電位の調節-血管条辺縁細胞のCaチャンネルの役割	生理学 教授	窪田 隆裕		2,000	1,200	0	0
自己抗体結合性非ホジキンリンパ腫特異抗原の同定と診断マーカーの検索	臨床検査医学 准教授	中西 豊文		2,200	1,300	0	0
『車椅子エコノミークラス症候群』の実態調査とその予防対策	内科学 講師	木村 文治		900	600	600	0
GABAの胃癌細胞増殖作用およびその産生酵素の消化器系癌組織における発現様式	解剖学 講師	前村憲太郎		700	700	0	0
発症直後患者膵組織の解析による劇症1型糖尿病の成因解明	内科学 教授	花房 俊昭		2,300	1,300	0	0
劇症1型糖尿病の成因解明 - モデルマウスを用いた膵島破壊分子の解析	内科学 講師(准)	今川 彰久		2,500	1,100	0	0
早期新生児期における酸素毒性・活性酸素傷害に対する耐性と在胎週数との関連について	周産期センター 講師	萩原 享		1,800	500	0	0
色素性乾皮症フェノタイプ多様性と酸化的DNA損傷修復能との関連に関する研究	皮膚科学 准教授	森脇 真一		1,800	1,700	0	0
うつ病患者における電気けいれん療法の臨床効果とサイトカイン発現量変化に関する研究	神経精神医学 助教	西田 勇彦		2,500	1,000	0	0
ドーパミンと睡眠 覚醒調節：ドーパミン受容体作動薬により生じる睡眠の脳内機構	神経精神医学 講師(准)	吉田 祥		2,500	1,100	0	0
移植マウス乳癌におけるリンパ節転移とリンパ管再生	解剖学 講師	伊藤 裕子		1,000	900	0	0
siRNAとデコイベクターによるリンパ管新生因子機能喪失と乳癌リンパ節転移阻止	解剖学 准教授	柴田 雅朗		2,500	1,000	0	0
重症肺高血圧症に対する一酸化窒素分泌型人工血管の肺動脈移植術の基礎的検討	胸部外科学 助教(准)	堀本佐智子		2,000	1,400	0	0
脳腫瘍の光線力学診断・治療法の最適化：高効率光線の開発と光感受性物質の分布解明	脳神経外科学 講師	梶本 宜永		1,400	1,000	1,000	0
アクロメリン酸A誘導体を用いた神経因性疼痛治療薬の開発	麻酔科学 教授	南 敏明		2,700	800	0	0
GABAによる知覚神経節細胞体の興奮性修飾を介した痛み刺激伝達の抑制作用	解剖学 講師(准)	早崎 華		1,500	1,300	0	0
卵巣癌におけるイレッサ、アバスタチンの白金製剤耐性解除の検討	産婦人科学 講師	寺井 義人		1,100	900	1,000	0
半規管内リンパ液カルシウムとpHの制御(半規管内に結石は生じうるか?)	耳鼻咽喉科学 講師	荒木 倫利		400	500	0	0
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン代謝及びその受容体と臨床的意義	耳鼻咽喉科学 准教授	河田 了		2,600	900	0	0

# 科学研究費補助金交付内定について

## 萌芽研究

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
選択的エストロゲン受容体調節薬の組織特異的な分子制御機構	産婦人科学教授	大道 正英	*	1,000	0	0	0
短半減期エリスロポイエチン誘導体とFGF2を用いた神経再生と神経保護の研究	脳神経外科学准教授	宮武 伸一	*	1,000	0	0	0

## 若手研究(B)

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
慢性肺疾患において宿主生来の免疫が果たす役割についての分子生物学的解析	周産期センター助教	大植 慎也	*	400	0	0	0
脳機能画像法による読み書き障害児の障害メカニズムの解明と、訓練の効果評価の試み	高次脳機能発達総合研究講座助教(准)	橋本 竜作	*	1,300	0	0	0
難治性急性前骨髄性白血病に対する新規レチノイド化合物探索法に関する研究	小児科学助教	井上 彰子	*	900	0	0	0
統合失調症治療薬による神経保護作用関連物質の変化に関する研究	神経精神医学助教	花岡 忠人	*	500	0	0	0
中性子捕捉療法における硼素化合物包埋リポソームの投与方法としてのCEDの有用性	脳神経外科学助教	川端 信司	*	1,100	0	0	0
NMDAおよび虚血による緑内障モデルに対するジアゾキサイドの神経保護効果	眼科学助教	奥野 高司	*	1,100	1,200	0	0
三叉神経損傷に対する神経幹細胞移植による治療効果	形成外科学講師	中井 國博	*	800	0	0	0
移植拒絶反応:自然免疫系細胞で誘導される、移植抗原に対する新規受容体に関する研究	生理学講師(准)	山路 純子		800	800	800	900
速度論および構造解析に基づく酵素触媒反応におけるプロトントンネリング機構の解明	生化学助教	村川 武志		900	1,200	1,100	0
劇症1型糖尿病患者血清の解析による新規インスリン様分子の同定	内科学助教(准)	村瀬 裕子		2,000	1,200	0	0
修復不能な肩腱板断裂の新たな手術法の開発:骨頭上方移動を制御する肩関節包再建術	整形外科助教	三幡 輝久		1,100	200	0	0
プロモーターマイクロアレイを用いたトポテカンの分子標的作用の解析	産婦人科学助教	西山 浩司		900	900	900	0
新たな流産誘発因子adipsin 胎盤内の補体活性または脂質代謝に与える影響	解剖学助教	日下部 健		800	1,100	1,100	0
ミュラー細胞におけるコラーゲン産生と特発性黄斑円孔の病態に関する基礎研究	眼科学助教	佐藤 孝樹		1,000	900	900	0
IFN- $\gamma$ KOマウスでの脱毛とIFN- $\gamma$ および同種移植による発毛の分子機構の解析	形成外科学非常勤講師	岡田 雅		700	600	600	0

## 若手研究(スタートアップ)

(研究課題番号順)

(単位:千円)

研究課題	研究代表者		継続	交付予定額			
	所属名・職名	氏名		19年度	20年度	21年度	22年度
脳機能画像法を用いた発達性協調運動障害の神経基盤の解明	高次脳機能発達総合研究講座助教(准)	柏木 充	*	1,300	0	0	0
神経栄養遺伝子を導入した骨髄細胞移植によるより安全な治療に関する研究	脳神経外科学助教(准)	池田 直廉	*	1,190	0	0	0

## 学術奨励金等・助成金等について

### 学術奨励金等について

平成19年度（第32回）学術研究振興資金 特定の共同研究 [ 日本私立学校振興・共済事業団 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
キマーゼ阻害薬による心・血管病治療戦略	薬理学・教授・宮崎 瑞夫	200万円

平成18年度 ガン研究助成奨励金 [ 財団法人 大阪対ガン協会 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
神経芽腫株におけるRXRアゴニストによるアポトーシス誘導機構の解析	小児科学・ 助教（准）・井上 彰子	30万円

平成19年4月助成「がん研究助成」[ 財団法人 大阪コミュニティ財団 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
前立腺癌転移マーカー“GABA”の有用性とSmad7遺伝子導入による治療効果の検討	泌尿器科学・ 准教授・東 治人	100万円

平成18年度高齢者の福祉および健康づくりに関する研究・調査助成

[ 財団法人 大阪ガスグループ福祉財団 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
地域在住高齢者におけるIADL保持のための因子探索 骨塩量からみた骨の健康の評価方法	衛生学・公衆衛生学 准教授・臼田 寛	80万円

平成19年度生体超分子複合体構造解析ビームライン共同利用研究課題（共同研究員）

[ 大阪大学蛋白質研究所 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名
酵素反応の多次元自由エネルギー解析 ( Multi-dimension free energy analysis of an enzyme reaction )	生化学（生化学領域）・ 助教・村川 武志

平成19年度共同利用研究 研究会 [ 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 ]

研究会名	所属名・職名・氏名
上皮膜機能活性化物質と上皮膜防御の最前線	生理学・准教授・中張 隆司

### 助成金等について

2007年度調査・共同研究助成 [ 財団法人日中医学協会 ]

研究課題名	所属名・職名・氏名	助成金額
磁気温熱により誘導される抗腫瘍免疫に関する研究	解剖学・教授・大槻 勝紀	100万円

## ハワイ大学医学部と本学の国際交流協定調印について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

ハワイ大学医学部との国際交流は、本学がPBLテュートリアル教育を導入するにあたり、米田、古谷両教授が、その分野では実績のある同校でのワークショップに参加されたことに始まります。その後、両大学の間で学生、教員の相互派遣が行なわれ今日に至っています。活動は年々活発になり、一昨年と昨年はそれぞれ3名のハワイ大学の学生がわが校で3週間の臨床実習を受け、今年3月にはわが校より6名の学生がハワイ大学で約10日間のPBL教育実習を受講しています。さらに今年6月にはハワイの学生が研修を受けるために来学予定になっています。



Greene教授の特別講義

これまでの両大学の取り組みを踏まえ、さらなる交流の発展に向けてこの度ハワイ大学医学部東アジア教育センター長のGordon Greene教授（本学交流センター客員教授）を迎え、国際交流に関する協定書の調印式が3月1日に行なわれました。

この協定書は2通あり、1通には本学植木学長、ハワイ大学医学部長Gary Ostrander教授の署名がなされ、その内容は

1. 相互の大学での1ヵ月間のクリニカルクラークシップ、もしくはインターンシップを行なうための費用負担、各種保険、予防接種などの取り決め
2. 相互の大学での医学部教員の研究、医学トレーニングに関する取り決め
3. この協定は2007年3月1日より発効し3年間後に更新する

もう1通には本学国際交流センター長の河野およびハワイ大学医学部教育センター長のRichard Kasuya教授の署名がなされ、その内容は

1. 医学部学生および教員の相互交流に関する取り決め
2. その他両大学間の特定の分野での交流に関する取り決め
3. この協定は2007年より発効し、当分の間は双方の希望内容を鑑みて毎年更新する

となっています。

調印式にはハワイ大学よりGreene教授、教育プログラムスペシャリストのRaymond Tabata氏、同秘書のMargit Sande-Kerback女史、わが校より、植木学長、大槻学生部長、米田教育センター長、宮本同センター教員、交流センター運営委員の花房、黒岩、島原、佐野各教授らの出席があり、本学管弦楽



たかつき京都ホテルにて 交流協定調印式



たかつき京都ホテルにて 調印式出席者

# 中山国際医学医療交流センター

部学生による演奏が行なわれ花が添えられました。

またこの調印式に先立ち、交流センター及び教育センター共催によるGreene教授の「ハワイ大学におけるPBL教育の現状と展望」と題した特別講演が行われ、活発な質疑のなかにも参加者一同PBL教育に対して新たな思いを胸にした次第です。

調印式を無事終えた翌3月2日午前、Greene教授のたつでの希望で、佐野教授、中野助教授、部員らの案内により本学弓道部の見学が行われました。

午後は卒業式に出席され、華やかななかにも荘厳な雰囲気での式典に感銘を受けられた様子で、その後行われた卒業生謝恩会では、ハワイ大学医学部を代表して祝辞を述べていただきました。

翌3月3日、一行は高槻を後にされましたが、今回の来日、調印式を機会に両大学の国際交流は教育、研究、文化など多彩な分野でますます発展するものと思われま



協定書

## ハワイ大学ワークショップ参加報告

中山国際医学医療交流センターでは、今年3月に6名の学生、(小見山麻紀さん、木下満さん、河野由佳子さん、丸尾英未さん、富岡淳さん、巴里彰吾さん)をハワイ大学に派遣致しました。

ここに、小見山麻紀さん、河野由佳子さん、富岡淳さんの報告を掲載致します。木下満さん、丸尾英未さん、巴里彰吾さんの報告は学生部だより第45号に掲載致します。

第5学年 小見山 麻紀

2007年3月22日から30日にかけて、ハワイ大学(John A. Burns School of Medicine)でのワークショップに参加させて頂きました。今回のワークショップではPBLや医療面接・診察などを通してClinical reasoning(臨床推論)を学びました。



右端

まずPBLについてです。日本でも2回生の終わり頃から約2年間PBLを経験して参りましたが、ハワイ大学で受けたPBLは日本でのものとは結構違うように感じました。まず初めに配布されるシナリオはとても短く、少ない情報からありとあらゆる仮説を臓器別にたくさん挙げます。追加で少しずつ与えられる情報を元に、挙げた仮説を一つずつ可能性がより上がるか下がるかを検討し、予想される疾患を絞り込んでいきます。その考え方はとても論理的で系統立っており、良く理解できて心の底から楽しかったです。今回感じた楽しさの理由には、ある程度の医学知識を持った状態で参加したということもあるでしょうが、それだけではないハワイと日本のPBLのあらゆる違いを感じました。日本でも、一人でも多くの学生がこの楽しさを感じられれば・・・と思いました。

医療面接では、模擬患者さんに対してハワイでは面接だけではなく、身体診察も含めて行います。そ



の様子を毎回ビデオで撮影され、後で振り返って自分の長所や改善点を見つけて今後に活かすのです。自分を客観的に見るのは恥ずかしいのですが、とても良い勉強になりました。最終日には、面接や診察だけでなく、疾患の予想、検査・治療計画まで一気に通して行う体験をしました。これがまた、とても楽しかったです。

このワークショップに日本全国から集まった他大学の医学生は、皆私より学年が上（ワークショップ時は5年生）医学知識が豊富、英語が上手、モチベーションも高い。そのため、良い刺激をたくさん受けました。また「学ぶ時は学ぶ！遊ぶ時は遊ぶ！」と言うことで、休日は観光、ショッピング、海（サーフィンなど）・フラダンスショー鑑賞、ハワイアンフード、夜は皆で飲みに行って語り合う・・・etcなど、毎日とても有意義に時を過ごしました。

最後になりましたが、このような機会が無い限りめったにできない貴重な経験をたくさんさせて頂いて、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。



## 第5学年 河野 由佳子

今回、大学から約1週間のハワイ大学でのワークショップ（以降WS）に参加させて頂きました。低学年の時から、このWSに興味を持っていて、いつか参加したいと強く思っていたので、参加できるという知らせが来た時は大変嬉しかったです。それと同時に6人の同学年のメンバーも決まり、普段、関わりの少ない子も多くて、少し不安も感じました。そして、実際にWSに参加できるとなると、医学英語にも不安を感じ、今思い返すと、ハワイに行くまで不安なことだらけでした。



最前列右から4人目

しかし、ハワイに行ってみると、そんな心配は、全く無用でした。こんなに短期間で色々な経験をして、成長を感じたのは初めてです。WSの内容は他の学生と重なる点があるかと思いますが、SIMPATについて少し書きたいと思います。SIMPATとは、simulated patientの略語で模擬患者さんに医療面接と簡単な身体所見をとるというものです。WSの初日からこのクラスがあり、何の知識もないまま、小部屋に模擬患者さんとビデオカメラと放り込まれて、15分間医療面接を英語で行い、診断、その後のケアプランを患者さんと話しをするというタスクを与られます。このクラスは毎日あり、ビデオレビューも数回ありました。3、4回目までは、このクラスがかなりストレスフルなもので、自分の番が回ってくるのが苦痛に感じさせました。しかし、トレーニングやPBLを受けることで、自分のスタイルを確立することができ、WS後半にもなると、今日の模擬患者さんはどんな症例だろうかと心構えも変わり、それと同時に余裕もでき楽しく学習することができました。PBLにおける診断を考えていく道筋が、医療面接に生かされるということも改めて実感しました。このことが今回のWSでの一番の収穫かもしれません。このWSは大変すばらしいもので、参加させて頂いたことを心から感謝しています。是非、後輩にも積極的に参加してほしいと思います。

最後になりましたが、河野教授、大槻教授、米田教授、中山交流センターの藤澤さん、PA会の方々、など多くの方に支えていただき本当にありがとうございました。



ハワイ大学では、PBL (Problem based learning : 問題解決型学習)、CRE (Clinical reasoning exercise)、CS (Clinical skill)などを学んだ。

PBLは、近年多くの大学の学習法に取り入れられている。ハワイ大学はアメリカのMedical schoolのうちで、PBLを最も積極的に教育プログラムに導入している指折りの大学の一つで、本学でもハワイ大学でのPBLを元に、実際の学習カリキュラムに深く取り入れられている。

ハワイ大学でのPBLを体験して感じた事は、日本で行われているPBLとハワイ大学のPBLとは同じような事を行っているようで全く裏表の内容をやっているという事である。PBLというのは学生同士が興味を持って自分達の力で一つの問題を解決していくプロセスが重要だと思うが、見事にそれが成されるような工夫がされていた。初めに与えられた“少ない情報 (Fact)”から少しでも可能性のある仮説 (Hypothesis) を可能な限り挙げ、そこから可能性を絞っていくために“必要な情報 (Need to know)”を自分達で考え、要求し、最終的に解決に至る。“能動的なPBL”という感じだ。元々PBLには能動的な意味があるので変ではあるが、日本で行われているPBLは、初めに与えられた“多くの情報 (fact)”からそのストーリーに沿う仮説 (Hypothesis) のみを挙げ、その確定のために必然的な“検査 (Need to know)”を要求し、解決にいたる。能動的に対して“受動的なPBL”という印象を受ける。能動的なPBLは常に脳がactiveであるのに対し、受動的なPBLは脳がinactiveな状態だと言える。実際は今みたいに、日本のPBLもハワイ大のPBLも100%こうだとはもちろん言い切れないが、大きくとらえるとこのあたりが本質的に違うところだと思った。

他にもアメリカでは保険制度や貧富の差から、レントゲンやCTはすぐには行わず、医療面接と簡単な検査だけである程度の診断を絞り込む事が求められ、ワークショップの全ての内容でその訓練ができて有意義だった。

その他、今回のワークショップは他大学の優秀な人達と一緒に、普段では関わりの無い人達と共に過ごした時間は本当に有意義だった。毎日夜遅くまでみんなと現地の人と共に騒ぎ、休みの日もみんな楽しく過ごす事ができた。

アメリカの医学教育を体験できたと共に、英語の重要性を改めて強く強く痛感し、ワークショップのFacultyからハワイ大学の学生、ただ単に同じ店に居合わせた人達まで様々な現地の人達と接する事ができ、さらに、9日間一日中共に過ごした仲間とはまた今までの友達とは違った深いつながりができた。

このワークショップに参加して本当に有意義な春休みを過ごしたと思う。ここで学んだ事は、今後の自分の様々な場面に生かしていきたいと思う。



左から2人目

## 海外留学成果報告

中山国際医学医療交流センターでは、事業の一環として、若手教員、研究者の海外留学を支援しており、その途中や帰国後に成果の報告をお願いしております。

平成16年12月からイギリス・ロンドンのRoyal Brompton Hospitalに留学していました第一内科学・

循環器谷川淳先生、並びに、平成17年4月からアメリカ・ミシガン州のUniversity of Michigan, Kellogg Eye Centerに留学していました眼科学小林崇俊先生の報告を掲載致します。



## ロンドン留学

第一内科 循環器 谷川 淳

医師にとっての海外留学は「人生の夏休み」といわれたりもする。日常臨床に忙しい生活から開放されて、外国でのゆっくりした時間を楽しめる。自分のしたいことをじっくりと自分のペースでできるが、その終わりには夏休みの宿題（論文などの業績）を仕上げねばならない。今回2004年12月より2年間、イギリス、ロンドンのロイヤル・ブロンプトン病院で臨床研究留学の機会に恵まれた。全く前任者のいない施設を選んだため、準備にはずいぶん手間取ったが、多くの方に応援をいただき実現した。

### ロンドンという街

ロンドンは観光、芸術、あるいは学術都市として数多くの側面を有す。バッキンガム宮殿の衛兵交代のような王室行事すら観光イベントとしてしまうし、ハイドパーク、グリーンパークなど大都市の中心にもかかわらず広大な公園が散在し、春から秋にかけては特に美しく何度訪れても飽きることはない。またサッカーのプレミアリーグ、テニスのウィンブルドンなどスポーツイベントも目白押しである。ミュージカルやオペラ、コンサートは毎日そこかしこで行われており、日本に比較すると圧倒的に安い。さらには大英博物館、ナショナルギャラリーなど、ほとんどの博物館・美術館は入場無料で公開されている。これらを楽しみ、さらに湖水地方やコッツウォルズといった田舎にも足を伸ばしていると、とても勉強どころではない。おまけにヨーロッパ内は超格安料金の航空券があり、1時間ほどでフランス、ドイツ、イタリアなどどこにでも行くことができる。勉強・仕事に来たのか、遊びに来たのか、ときに分からなくなってしまう。



コッツウォルズ地方のマナーハウス

### ロイヤル・ブロンプトン病院

私の留学先はRoyal Brompton Hospitalという心臓専門病院であった。約200（外科50、循環器50、小児30、成人ICU20、小児ICU12）のベッドを有し、5つのオペ室と4つのカテ室を持つ。乳児から大人まで全患者が心臓疾患の治療に訪れ、年間血管造影1,200、冠動脈インターベンション：1,100、ペースメーカー植え込み：700、電気生理学検査・治療800、心臓バイパス手術500、弁置換術：400、その他心臓手術（成人）：600、小児心臓手術：400を行っている。イギリスでは侵襲的治療を行える施設が限られており、1施設に症例が集まってくる。手技は各術者に一任されている。院内に約20人の教授がおり、全員が心臓疾患を専門とし、心エコー、心臓MRI、心臓CT、心臓外科などすべてをカバーしている。私のsupervisorはProfessor Carlo Di Marioといい冠動脈インターベンション治療を専門とする。

私の主な仕事は、新しい心血管内イメージング（OCT：Optical Coherence Tomography）を使った臨床研究であった。このOCTは眼科領域ではすでに広く使われているが、循環器内科領域ではヨーロ

## 中山国際医学医療交流センター

ッパで臨床使用許可が下りたばかりであった。装置導入、リサーチ企画立案、グラント応募など初めての仕事ばかりな上に、日本人の同僚もおらず当初は困惑していたが、言葉が不得手でもコミュニケーションが取れることを学んだ。

最後に

今回の留学に際し、数々のご配慮をいただいた加藤修先生、第一内科花房教授、石原助教授また渡航費用の応援をいただいた中山国際医学交流センターそしてロンドンでのボス、Prof. Carlo Di Marioに深く感謝を述べたい。



日本からヨーロッパ心臓病学会学術集会へ実技指導に来られた加藤修先生（右二人目：豊橋ハートセンター研究所所長、大阪医科大学第一内科非常勤講師）Prof. Di Mario（右四人目）および著者（左二人目）



## University of Michigan , Kellogg Eye Center に留学して

眼科学教室 **小林 崇俊**

私は平成17年4月から1年6ヶ月にわたり、アメリカのミシガン州にありますミシガン大学のKellogg Eye Centerに留学させていただいておりました。ミシガン州は、中西部と呼ばれる地方の最北に位置し、緯度は日本の北海道と同じくらいで周囲を五大湖のうちの四つの湖に囲まれている大変自然の豊かな所です。そのため夏は比較的涼しいのですが、冬は寒さが大変厳しくて雪も非常に多く積もります。大学のあるAnn Arbor市は人口11万人余りの小さな都市で治安も大変良く、自動車産業で有名なデトロイト市から車で30分ほどの所にある関係上、周辺地域には自動車会社関連の駐在員など比較的日本人が多く住んでおり、和食レストランや日本人向けのスーパーもあって日本人が生活するには大変恵まれた環境にあります。家族で留学していたこともあり、生活面で苦労をそれ程感じなかったことは大変有り難いことでした。

ミシガン大学の眼科はKellogg Eye Centerという形で一つの建物の中に診療施設と研究施設が同居しており、医学部付属病院からやや離れたところにあります。建物は地上8階建てで1985年に設立されました。私がお世話になりましたPuro先生のラボには以前、当教室の池田教授も留学されておられ、教授のご尽力で当教室からは今まで数々の先生方が留学してきておられます。Puro先生のご専門は眼の中の網膜組織を対象とした生理学であり、具体的には網膜血管を取り囲むように存在する周皮細胞や、網膜の主要なグリアであるミュラー細胞などの生理機能について、パッチクランプを用いてこれまでに数々の優れた業績をあげておられます。先生は大変穏やかで実直な紳士、といった感じの方で面倒見もよく、初めての海外生活で右も左も分からない私を研究面はもとより生活面でもいろいろとサポートして下さいました。

実際の向こうでの生活は朝9時頃から夜の8時頃まで毎日実験を繰り返す、といったものでしたが、やはり当



Ann Arborの街並み

初は思うような結果がなかなか得られず、正直なところ不安や焦りを感じたことも度々ありました。そのような時でもPuro先生は穏やかな口調で実験の問題点と方針を示され、私はそれに従っただけなのですが、幸いにも一定の成果を得ることが出来ました。

また私生活の面では、同じラボの日本人の先生方と家族を含めて大変仲良くさせていただき、その他違うラボの先生方や現地の方々とも友人になることができ、日本では経験出来なかったであろう非常に充実した幸せな時間を過ごすことが出来ました。今までは海外に旅行も殆どしたことがなかった私でしたが、海外から日本でのそれまでの生活を見つめ直すことができ、ほんの少しではありますが様々な面で視野を広げることが出来たのではないかと感じております。

最後になりましたが、このような留学という貴重な機会を与えて下さいました池田教授をはじめ、医局員の諸先生方、並びにご支援下さいました中山国際医学医療交流センターの関係各位の皆様方に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



Kellogg Eye Centerの前で

## 上海第六人民医院医師団の本学第2次訪問について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成19年3月3日より3月10日にかけて日中医学交流センターの依頼により上海第六人民医院の顧春江内科主任、徐振興麻酔科主任ら12名の医師と通訳1名が本学を中心に関西数カ所の病院、施設を訪問されました。昨年10月に同病院より7名の医師が同様の目的でわが大学を見学されましたが、帰国後に開催された報告会で大変好評であったことから、再度見学依頼があり、今回の訪問が実現した次第です。

一行はまず国際交流センターで本学についての説明を受けた後、花房副院長、島原教授(当センター運営委員)



7A病棟の見学



学長表敬訪問

の案内で前回と同様に7号館の外来・病棟、5号館、リハビリセンター、MR室、大学図書館、講義実習棟などを見学した後、植木学長を表敬訪問されました。

今回の訪問団もまた大変感銘を受けられた様子で、途中随所で写真撮影や質問を繰り返され、見学を終えた時は予定時間をかなり超過していました。

この度の中国医師団の研修に際し、國澤理事長、植木学長、竹中病院長をはじめご協力を頂いた看護部並びに教職員各位に対し厚く御礼申し上げます。

## 格付について 感謝状伝達

### 学校法人大阪医科大学 格付「A+」を維持

学校法人大阪医科大学は、平成18年12月4日 株式会社 格付投資情報センター（R&I）による格付の審査を受けました。本年1月31日に審査結果が公表されましたのでお知らせします。

受審結果は、平成18年度も前年度同様「A+」の格付を維持継続することができました。「A+」の格付は、21段階ある格付の上から6番目であり、格付けの方向性が「安定的」という結果でありました。これは、金融債務に対して総合的な債務履行能力や個々の債務の支払の確実性（信用力）について評価されたこととなります。同ランクには、サントリー、東レ、塩野義製薬、三菱重工業、三菱東京UFJ銀行など有名企業が並んでおります。

「A+」の格付けが得られた理由として、学校法人の資産運用や大学の入試改革など経営努力の成果及び附属病院の地域の中核病院としての重要な役割と今後も一定の競争力の維持が可能であると評価されたものです。

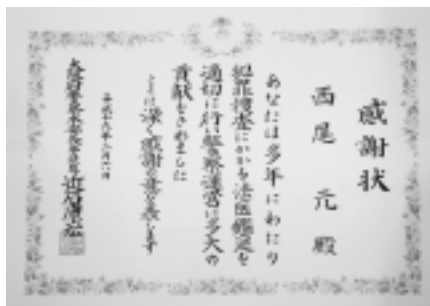
これらの評価を得ることができたのも、教職員、同窓、学生保護者等法人関係者の努力の結果と考えております。

平成19年度も法人の収支は大変厳しい状況が予想されますが、一層の教育・研究及び診療の充実を図ることができるよう、支出の抑制をはじめとする経営改革を行い、財務状況の改善を図り、格付け維持、向上ができるよう努力いたします。

## 感謝状伝達

平成19年2月8日日本学学長室において、長年の警察運営への貢献に対して、大阪府警察本部刑事部長から法医学教室西尾元助教授に感謝状が伝達されました。

大阪府では年間1万体を越える異状死体の届け出があり、大阪府下の5大学の法医学教室で法医解剖が行われています。大阪医科大学は、高槻、茨木、枚方をはじめとする大阪府下の11の警察署管轄地域の司法解剖を担当して、年間約200体の解剖を行っています。解剖の数は人口の高齢化や独居者の増加のために年々増加しています。大学は法医解剖を通して犯罪捜査や死因究明を行い、地域への貢献を行っています。



受賞等について

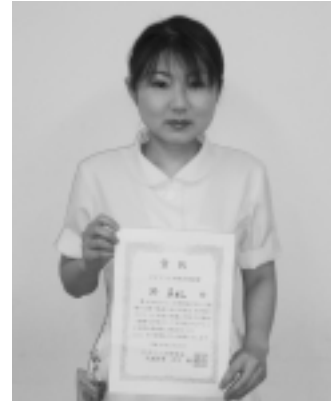
**ビタミンE研究会 奨励賞受賞**

**小児科学 洪 真紀先生（大学院生）**

平成19年1月26日、長崎のハウステンボスで開催されたビタミンE研究会にて、奨励賞を受賞されました。

研究課題

『ビタミンE輸送タンパク質の発現調節機構の解明』



**平成18年度日本衛生学会奨励賞受賞**

**予防・社会医学講座**

**衛生学・公衆衛生学 教室 白田 寛准教授**

平成19年3月に開催された第77回日本衛生学会総会にて、奨励賞を受賞されました。

研究課題

『ICP発光分析法による生体微量元素の分析』



**第60回日本臨床眼科学会・学術展示優秀賞受賞**

**眼科学教室 杉山 哲也講師**

平成19年4月に開催されました第111回日本眼科学会総会（大阪市）で、緑内障治療薬の眼血流に及ぼす影響を検討した臨床研究が評価され、第60回日本臨床眼科学会・学術展示優秀賞を授与されました。

演 題

『ラタノプロスト・遮断薬併用による正常眼圧緑内障・視神経乳頭血流の変化』



# 教育センター

## 平成18年度提供講座について

教育センター長 **米田 博**

平成17年度より第4学年カリキュラムの中で「提供講座（医療をとりまく社会環境）」を開講しました。この講座は、野村證券(株)のご支援による特別講師派遣のもとに実施され、本学学生が「医療をとりまく様々な社会環境を理解し、良き医療人として適切な対応がとれる知識を要請する」(シラバス一般目標)ことを目的に正規カリキュラムとして開講されたものです。

平成18年度は以下内容で計5回を開講し、対象学生のほぼ100%の出席率が示すとおり好評のもとに終了しました。

講座名	医業経営 「開業と運営に関する基礎知識」	医療と法	医と宗教	医療分野における 水と健康	スポーツ医学及び 産業医学の実践
開講日	平成18年10月11日(水) 13:00 - 14:00 14:10 - 15:10	平成18年10月19日(水) 13:00 - 14:00 14:10 - 15:10	平成18年11月22日(水) 13:00 - 14:00 14:10 - 15:10	平成18年12月13日(水) 13:00 - 14:00 14:10 - 15:10	平成19年1月17日(水) 13:00 - 14:00 14:10 - 15:10
講義場所	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂	臨床第一講堂
講師氏名 (フリガナ)	森田 茂伸 (モリタ シゲノブ)	松川 正毅 (マツカワ タダキ)	三宅 善信 (ミヤケ ヨシノブ)	森澤 紳勝 (モリサワ シンカツ) 白畑 實隆 (シラハタ サネタカ)	土井 龍雄 (ドイ タツオ)
受講 学生数	98名	97名	94名	97名	95名
現職	森田 茂伸税理士 事務所所長 税理士 C・F・P 医業経営 コンサルタント	大阪大学大学院高等 司法研究科科長 教授	IARF(本部オックス フォード)国際評議員 金光教 泉教会 執行	(株)日本トリム代表 取締役 社長 九州大学大学院農 学研究院遺伝子資 源工学部門教授	医療法人 貴島会 ダイナミックスポ ーツ研究所 副所長

## 平成18年度大阪医科大学給付奨学金支給特待生

平成18年度大阪医科大学給付奨学金支給特待生は、下記の通りです

第6学年	石上晃子	藤井友起子	吉川信彦
第4学年	本庄紋佳	三宅崇文	大島衣里子
第2学年	中西祐介	上原尚子	足立玲子 齋藤賢吉
第1学年	瀬能久代	中野和俊	寺下和範



## 平成18年度 第 回 学位記授与

日 時： 平成19年 3月30日（金） 14：00～  
 場 所： 別館（歴史資料館）3階 大学院多目的講義室  
 大学院医学研究科修了者（甲）...34名  
 論文提出者（乙）.....10名



大学院医学研究科修了者

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第743号	有城 久美子	Angiotensin receptor-1 blocker inhibits atherosclerotic changes and endothelial disruption of the aortic valve in hypercholesterolemic rabbits (アンジオテンシン1型受容体拮抗薬は高コレステロール負荷ウサギの大動脈弁における硬化性変化及び内皮障害を抑制する)
甲第744号	稲元 輝生	Anti-CD26 monoclonal antibody-mediated G1/S arrest of human renal clear cell carcinoma Caki-2 is associated with Rb dephosphorylation, CDK2 reduction, p27 <sup>kip1</sup> enhancement, and disruption of binding to the extracellular matrix (細胞表面抗原CD26分子に対する特異抗体は、p27 <sup>kip1</sup> の発現上昇とCDK2及びリン酸化Rbの発現低下を介してG1/Sチェックポイントで癌細胞の細胞周期を停止させると同時に細胞外マトリックスへの結合を阻害する)
甲第745号	井上 洋人	Massive apoptotic cell death of human glioma cells via a mitochondrial pathway following 5-aminolevulinic acid-mediated photodynamic therapy (5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法におけるヒトグリオーマ細胞のミトコンドリア経路を介したアポトーシス)
甲第746号	茨木 利彦	The relationship of tryptase- and chymase-positive mast cells to angiogenesis in stage non-small cell lung cancer (期非小細胞肺癌におけるトリプターゼ、キマーゼ陽性肥満細胞と血管新生の関連)

甲第747号	右梅 貴信	FTY720 Induced bcl-associated and fas-independent Apoptosis in Human Renal Cancer Cells <i>In Vitro</i> and Significantly Reduced <i>In Vivo</i> Tumor Growth in Mouse Xenograft (FTY720によるbcl-経路を介したアポトーシス：マウス腎癌モデルを用いた癌増殖抑制効果の検討)
甲第748号	梅川 俊義	ハムスター子宮内膜症モデルの臓器癒着における肥満細胞の関与 (Relationship between number of mast cells and adhesion formation in hamster endometriosis model)
甲第749号	奥田 信昭	Depressed Myocardial Contractile Reserve in Patients With Obstructive Sleep Apnea Assessed by Tissue Doppler Imaging With Dobutamine Stress Echocardiography (組織ドプラ・ドブタミン負荷エコー図法による評価で閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者は心筋収縮予備能が低下している)
甲第750号	川上 真樹子	重症患者に対する経腸栄養管理 第1報 重症救急患者に対する早期経腸栄養 第2報 脳低温療法施行患者に対する超早期経腸栄養は可能である (Management of enteral nutrition in critically ill patients Part1 : Early enteral nutrition in critically ill emergency patients Part2 : Early institution of enteral nutrition is feasible in patients undergoing brain hypothermia therapy)
甲第751号	岸 勸太	Role of Chymase-Dependent Angiotensin Formation in Monocrotaline-Induced Pulmonary Hypertensive Rats (モノクロタリン誘発肺高血圧ラットにおけるキマーゼ依存性アンジオテンシン 産生の役割)
甲第752号	小林 崇俊	Advanced glycation end products induce death of retinal neurons via activation of nitric oxide synthase (蛋白糖化最終産物は一酸化窒素合成酵素の活性化を介して網膜神経細胞死を惹起する)
甲第753号	白石 奈々子	Effects of $\gamma$ -Aminobutyric Acid (GABA) on Proliferation of the Gastric Cancer Cell Line, KATO ( $\gamma$ -アミノ酪酸 (GABA) による胃癌細胞株KATO の増殖効果について)
甲第754号	曾山 明子	Intraventricular Dyssynchrony May Play a Role in the Development of Mitral Regurgitation in Dilated Cardiomyopathy (拡張型心筋症の僧帽弁逆流と心室内同期不全の関与)
甲第755号	大黒 恵理子	Analysis of morphology and infectivity of measles virus particles (麻疹ウイルス粒子の形態と感染性に関する研究)
甲第756号	田中 秀一	INHIBITION OF MATRIX METALLOPROTEINASE-9 ACTIVITY BY TRANDOLAPRIL AFTER MIDDLE CEREBRAL ARTERY OCCLUSION IN RATS (ラット中大脳動脈閉塞モデルに対するトランドラプリルによるマトリックスメタロプロテイナーゼ9 抑制効果の検討)
甲第757号	赵 明珠	Novel therapeutic strategy for stroke in rats by bone marrow stromal cells and <i>ex vivo</i> HGF gene transfer with HSV-1 vector (HSV-1ベクターによりHGF遺伝子を導入した骨髄間質系細胞を用いたラット脳梗塞モデルに対する新しい治療戦略)

甲第758号	月山 芙蓉	Gallate, the component of HIF-inducing catechins, inhibits HIF prolyl hydroxylase (HIF誘導カテキンの部分構造である没食子酸によるHIFプロリン水酸化酵素の阻害)
甲第759号	土手 江美	Acute lethal toxicity, hyperkalemia associated with renal injury and hepatic damage after intravenous administration of cadmium nitrate in rats (ラットを用いた硝酸カドミウム静脈内投与後の急性致死毒性、腎障害に伴う高カリウム血症および肝障害)
甲第760号	中川 大輔	Post operative outcome in aortic stenosis with diastolic heart failure compared to one with depressed systolic function (拡張性心不全を伴う大動脈弁狭窄症の手術予後、収縮機能低下を伴うものとの比較)
甲第761号	二村 吉継	Effects of CO <sub>2</sub> /HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> in Perilymph on the Endocochlear Potential in Guinea Pigs (モルモット蝸牛内直流電位に対する外リンパ液 CO <sub>2</sub> /HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup> の影響)
甲第762号	能見 勇人	Infiltration of H-2 <sup>d</sup> -Specific Cytotoxic Macrophage with Unique Morphology into Rejection Site of Allografted Meth A (H-2 <sup>d</sup> ) Tumor Cells in C57BL/6 (H-2 <sup>b</sup> ) Mice (C57BL/6 (H-2 <sup>b</sup> ) マウスに同種異系 Meth A (H-2 <sup>d</sup> ) 腫瘍細胞を移植するとユニークな形態のH-2 <sup>d</sup> 特異的細胞傷害性マクロファージが移植部へ浸潤する)
甲第763号	平野 すずえ	Physiologically high concentrations of 17-β-estradiol enhance NF-κB activity in human T cells (生理学的高濃度の17-β-エストラジオールはヒトT細胞においてNF-κB活性を増強する)
甲第764号	廣瀬 潤	Inactivation of antineoplastics in clinical wastewater by electrolysis (電気分解による医療廃液中抗悪性腫瘍剤の不活化処理)
甲第765号	藤田 能久	Proteomics-Based Approach Identifying Autoantibody against Peroxiredoxin 2 as a Novel Serum Marker in Esophageal Squamous Cell Carcinoma (プロテオーム手法による食道扁平上皮癌における新規診断マーカー、抗 Peroxiredoxin 2 抗体の同定)
甲第766号	藤野 久仁子	Transcriptional Expression of Survivin and its Splice Variants in Endometriosis (子宮内膜症における survivin 遺伝子とその splice variants の発現)
甲第767号	藤原 新也	Relationship Between Liver Fibrosis Noninvasively Measured by Fibro Scan and Blood Test (フィブロスキャンによって非侵襲的に測定した肝線維化と血液検査との関連性)
甲第768号	二口 光里	Transcriptional expression of survivin and its splice variants in cervical carcinomas (子宮頸癌における survivin 遺伝子とその splice variants の発現)
甲第769号	古林 圭一	The significance of chymase in the progression of abdominal aortic aneurysms in dogs (イヌ腹部大動脈瘤の進展におけるキマーゼの役割)

## 学位記授与

甲第770号	森 保彦	Flow-Mediated Dilatation in Obese Children (肥満児における内皮依存性血管拡張反応)
甲第771号	山上 高生	ATPによって惹起された網膜微小血管周皮細胞の容積変化:周皮細胞による網膜血流の調節 (Effects of ATP on pericyte volume in rat retinal microvessels: regulation of retinal blood flow by pericyte)
甲第772号	山口 裕之	Clinical efficacy of conservative laser therapy for early-stage cervical cancer (初期子宮頸部癌に対する保存的レーザー治療の臨床的効果)
甲第773号	山本 直宗	Treatment of post-dialytic orthostatic hypotension with an inflatable abdominal band in hemodialysis patients (透析直後起立性低血圧に対するエアー加圧式腹部バンドを用いた治療)
甲第774号	弓場 一秀	Frequent Establishment of Long-term-cultured Myofibroblast Cell Lines Derived from Dupuytren's Nodules, Which Are Implantable into Nude Mice (Dupuytren 拘縮患者より採取され、ヌードマウスに移植可能な筋線維芽細胞株の樹立)
甲第775号	横山 勲	Establishment of gold standard for electrolyzed sodium chloride solution in disinfection (食塩水電気分解産物の消毒効果比較検討に用いる標準の確立)
甲第776号	吉中 亮二	COX-2 Inhibitor Celecoxib Suppresses Tumor Growth and Lung Metastasis of a Murine Mammary Cancer (高転移性マウス乳癌モデルを用いた COX-2 選択的阻害薬 celecoxib の抗腫瘍効果および抗転移作用)



論文提出者

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1035号	増田 大介	INTRADUCTAL ULTRASONOGRAPHY OF THE GALLBLADDER IN APPLICATION OF THE ENDOSCOPIC NASO-GALLBLADDER DRAINAGE (内視鏡的経鼻胆嚢ドレナージ術を利用した胆嚢IDUS)
乙第1036号	日下部 健	Effect of Danazol on NK Cells and Cytokines in the Mouse Uterus (マウス子宮におけるNK細胞およびサイトカインに対するダナゾールの効果)
乙第1037号	岩倉 研二	Unique enhancement of multinuclear giant cell formation in AGS cell line infected with <i>Helicobacter pylori</i> ( <i>Helicobacter pylori</i> がAGS細胞におこす新たな細胞変性効果)
乙第1038号	鈴木 秀治	Success Rate of Implantation and Mid-term Outcomes of the Sirolimus-eluting Stent (シロリムス溶出性ステントの初期成功率および中期成績について)
乙第1039号	竹内 利寿	Development of a new contrast endoscopic method with Techno Color blue P (テクノカラーブルーPを用いた新しい色素内視鏡検査法の開発)
乙第1040号	成山 仁	ステント植込みによる内膜肥厚に対するセリバスタチンの抑制効果 (HMG-CoA reductase inhibitor, cerivastatin, inhibits stent-induced intimal hyperplasia of rabbit carotid artery)
乙第1041号	下村 裕章	Autophagic Degeneration as a Possible Mechanism of Myocardial Cell Death in Dilated Cardiomyopathy (拡張型心筋症におけるオートファジー変性による心筋細胞死の可能性)
乙第1042号	榮樂 周子	Effects of <i>Helicobacter pylori</i> Infection on Mucin Phenotype of Early Differentiated Gastric Carcinoma; Study with Gastric Mucosal Specimens Obtained by Endoscopic Mucosal Resection (早期分化型胃癌の形質発現における <i>Helicobacter pylori</i> 感染の関与 内視鏡的胃粘膜切除標本を用いての研究)
乙第1043号	神崎 裕美子	Myocardial Inflammatory Cell Infiltrates in Cases of Dilated Cardiomyopathy as a Determinant of Outcome Following Partial Left Ventriculectomy (拡張型心筋症の心筋における炎症細胞浸潤は左室縮小形成術の予後規定因子である)
乙第1044号	野口 誉生	Effect of Long-term Administration of Ammonia Water on Rat Gastric Mucosa Combined Effect of Gastric Mucosal Protective Agents (アンモニア水長期投与によるラット胃粘膜に及ぼす影響 胃粘膜防御因子製剤併用による効果も含めて)



### 平成18年度卒業証書・学位記授与式

日 時： 平成19年3月2日（金） 14：00～

場 所： 新講義実習棟1階 P101室

医学部医学科卒業生 96名



#### 平成18年度 卒業式告辞

学長 植木 實

皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、ご出席頂きましたご両親様、ご家族の方々もさぞお慶びのことと拝察申し上げます。

本日はご多忙の中ご来臨を賜りました関西医科大学 塚原理事長、高槻医師会 甲斐会長、仁泉会 榎原理事長、本学P A会前田隆義会長を始め、本学法人役員並びに元学長、名誉教授の皆様方に厚く御礼申し上げます。

そして、今日は特別に本学と学术交流があり、PBLチュートリアルをご指導頂いていますハワイ大学医学部から、グリーン教授、タバタ教育スペシャリスト並びにサンドカーバック教育補佐の諸先生方にご出席頂いております。

Ladies & Gentlemen, I would like to introduce you to our distinguished guests, Prof. Greene, Mr. Tabata Educational Program Specialist, and Ms. Sande-Kerback Educational Program Assistant, University of Hawaii, School of Medicine.

Prof. Greene, Mr. Tabata and Ms. Sande-Kerback, welcome to Osaka Medical College. Thank you very much for your attendance at our graduation ceremony of Osaka Medical College.

We are pleased to have completed the signing for our academic exchanges including students between University of Hawaii, School of Medicine and Osaka Medical College yesterday.

We very much hope our exchanges will continue forever and develop deeper from now on.

Thanks again for your visit this time.

さて、皆さんの卒業までを振り返りますと、中学・高等学校から医学部を目指して勉強され、大阪医科大学にご入学、この度6年間の学習と研修をすまされて無事卒業されました。

もちろん、青春の長い間、諸君は自分自身、相当な努力をされてきたと思いますが、ご両親、保護者の方々の多大な庇護と愛情、そして先生方、友人、クラブの仲間のお蔭であり、また国の支援もあったことを知ってほしいと思います。このことを今日、改めて認識し、感謝の気持ちを生涯忘れないで頂きたいと思います。

「長いトンネルを抜けるとそこは雪国であった」という川端康成の有名な小説の冒頭の一節がありますが、皆さんはいくつもの長いトンネルを抜けて来られました。その度に、諸君は自分自身に満足のいく、或いはそうでなくても人から見るとうらやましい成果を得られ、心の中で美しい景色を見て来られてきたことと思います。そして今日、最後のトンネルを抜けて、独立した夢と希望ある自分の世界の入口に立っています。これからどのような人生にするかは自分自身で判断しなければなりません。皆さんは医師になりますので、当然、本学の理念『人間性豊かな良医の育成』に沿って目標を定め、臨床力のある医師、或いは研究力のある医師を目指して努力されることと思います。

ここで、皆さんの人生に大切な心掛けをもう一つ知っておいてほしいと思います。それは、論語の名言『君子重からざれば即ち威あらず』が言い表しています。“威”という文字は威力の“威”であります。これは、人は人間としての重み、深みがなければ社会人として、また指導者としての力や魅力がないことを喝破しております。皆さんはこれからが本当の大人、社会人です。後輩や自分の子供を含めた周りの人に自分の背中を見せねばなりません。その時、何が大切かといいますが、重みや深みを持つ人間の魅力、即ち人間学を備えていることです。皆さんは、堂々と自分の背中を見せられる魅力ある人に成長してほしいと念願致します。

そして、諸君は巣立っていく大阪医科大学を誇りにし、“大学は皆のもの”という意識を共有しながら、皆さんと教職員、同窓会、法人と力を合わせて大学のブランド力を高めようではありませんか。また同時に、同窓会の仁泉会会員としての活動も是非お願い致します。

以上をもちまして、皆さんへの門出の祝詞と致します。

おめでとうございます。



本館・図書館棟前にて

## 平成18年度 看護専門学校卒業式

平成19年3月8日（木）午後1時から、看護専門学校講堂において、第一看護学科40名定員の最後の卒業生である39名の卒業式が挙行されました。答辞では、これまでの苦しい日々、楽しい日々を支えて下さった人々への感謝の気持ちが述べられ、厳粛のうちにも感激の式になりました。



## 平成19年度 看護専門学校入学式



平成19年3月8日（木）午後1時より、看護専門学校講堂において、看護師を目指す82名（内男子2名）の入学式が執り行われました。不安と期待から緊張した面持ちの入学生は、個々の目指す看護師像を胸に、これからの3年間の着実な歩みを決意しました。



## 平成19年度 新入職員辞令交付式



平成19年4月2日（月）午前9時30分から臨床第1講堂において、新規採用者118名に対し、理事長より辞令が交付されました。

事務職員	4名
技術職員	20名
看護職員	92名
契約職員	2名



## 患者サービス向上委員会主催講演会



日時：平成19年3月13日（火）17：00～18：30  
演題：「医療従事者に伝えたいこと」  
講師：パリアフリー研究所 木島英登

講師は、17歳時に脊椎損傷され、当院に入院されていた方です。

患者様の声に耳を傾けることの大切さを学びました。参加者は328名でした。

## 診療情報に関する特別講演会



日時：平成19年3月26日（月）17：00～18：30  
演題：「クリニカルパスで

業務の効率化を実現しよう」

講師：財団法人 新田塚医療福祉センター  
福井総合病院 副院長  
勝尾 信一 先生

クリニカルパスを導入することで、医療の質の向上、チーム医療が促進され患者サービスに貢献できるということを、事例を挙げてわかりやすくご講演いただきました。257名の参加者がありました。

## 平成19年度 新入生学外合宿

平成19年度医学部新入生に対する学外合宿が、京都厚生年金休暇センター「ウエルサンピア京都」（京田辺市）において、新入生101名と教職員約30名の参加のもと、4月4日（水）～4月6日（金）の2泊3日にわたり実施されました。

新入生達は、グループ討論、ビデオ鑑賞、救急蘇生、体験学習、先輩からのメッセージ、懇親会など多彩な日程の中でお互いの親睦を深めました。



# LDセンター活動報告

## LDセンター主催講演会



平成19年1月29日(月) 10:00~12:00 大阪医科大学LDセンター

『子どもの「読む」力「書く」力の理解とその指導』

講師：水田 めくみ 先生(大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士)

平成19年2月17日(土)

13:30~16:30 臨床第1講堂

『発達障害の子どもにみられる

視機能の問題とその指導』実践編(1)

~視覚に弱さを持つ児童への配慮とトレーニング~

講師：奥村 智人 先生

米国パシフィック大学オプトメトリー修士課程、教育学修士課程修了。本学LDセンターオプトメトリストとして子どもの視覚能力の評価、視覚トレーニングを実践し、視覚発達と学習について研究を行っている。米国オプトメトリー学会会員。



平成19年3月4日(日) 10:00~16:30 大阪医科大学 看護学校ホール

『ライフスパンを通じた支援と配慮』

~ライフスパンを通じて考えることで、今できる支援を考える~

講師：里見 恵子 先生(大阪府立大学)

西岡 有香 先生(大阪医科大学LDセンター)

金 泰子 先生(大阪医科大学小児科学)

竹田 契一 先生(大阪医科大学LDセンター顧問)



平成19年3月28日(水)

10:00~16:00 新講義実習棟

## 【指導者研修】

『高機能広汎性発達障害のIEP作成』

講師：落合 由香 先生(神戸YMCA)

西岡 有香 先生

(大阪医科大学LDセンター)



『2006年度第3回

軽度発達障害アセスメント研修会』

~ WISC - 知能検査の実施と解釈を中心に ~

講師：山田 充 先生(堺市日置荘小学校教諭)

苫廣 みさき 先生(堺市立五箇荘東小学校)



## 2007年度 大阪医科大学LDセンター主催 研修会・講演会一覧

日時	曜日	研修名	講師(予定)	時間帯
5月27日	日	学校システムは変えられるのか	竹田契一先生、後野文雄先生、品川裕香先生、外磯やよび先生	10:00~17:00
6月23日	土	アセスメント研修会(WISC の解釈を中心に)	山田充先生、新田展子先生、水田めぐみ先生	10:00~16:00
6月23日	土	高機能広汎性発達障害のIEP作成	落合由香先生、谷川友子先生、栗本奈緒子先生	10:00~16:00
6月23日	土	軽度発達障害のある子どもの幼児期の理解と指導	里見恵子先生、秋元壽江先生、松尾育子先生	13:00~16:30
7月14日	土	特別支援教育の現状と今後への期待	上野一彦先生、竹田契一先生、柘植雅義先生	13:00~16:30
7月15日	日	軽度発達障害のある児童・青年の二次障害と心のケアを考える	竹田契一先生、田中英高先生、金泰子先生	10:00~16:30
7月16日	月	中高生・青年へのソーシャルスキル・ライフスキル指導	小貫悟先生、西岡有香先生	9:30~16:30
7月30日	月	読み書き障害の評価と指導	若宮英司先生、宇野彰先生、村井敏宏先生	9:30~16:30
7月31日	火	ハワイ州アセツススクール教育に学ぶ	ルー・サルツァ先生、パティ・ジェンクス先生、竹田契一先生	9:30~17:30
8月1日	水	読み書き障害のIEP作成	村井敏宏先生、栗本奈緒子先生、水田めぐみ先生	10:00~16:00
8月28日	火	読み書きのある中学生のIEP作成	西岡有香先生、栗本奈緒子先生、水田めぐみ先生	10:00~16:00
9月9日	日	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導	川端秀仁先生、奥村智人先生	13:00~16:30
10月13日	土	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導	奥村智人先生	13:30~16:30
10月20日	土	学校と保育園・幼稚園で知っておきたい医療管理	玉井浩先生、村田卓士先生、根本慎太郎先生	10:00~12:30
10月20日	土	ダウン症の思春期・青年期の問題の理解と支援	玉井邦夫先生、玉井浩先生	13:30~16:30
10月27日	土	ADHDのある人の思春期・青年期の課題	高山恵子先生、里見恵子先生	13:30~16:30
11月10日	土	ADHD/高機能広汎性発達障害の教育と医療	竹田契一先生、若宮英司先生	10:00~17:00
12月8日	土	発達障害の子どもにみられる視覚能力の問題とその指導	奥村智人先生、中村明子先生	13:00~16:30
12月22日	土	アセスメント研修会(WISC の解釈を中心に)	山田充先生、谷川友子先生、栗本奈緒子先生	10:00~16:00
12月22日	土	ADHDのIEP作成	米田和子先生、落合由香先生、水田めぐみ先生	10:00~16:00
2月9日	土	視覚能力のアセスメントとトレーニングについて(ワークショップ)	奥村智人先生、三浦朋子先生	10:00~16:00
3月8日	土	アセスメント研修会(WISC の解釈を中心に)	山田充先生、苫廣みさき先生、西岡有香先生	10:00~16:00
3月15日	土	特別支援教育へのヒント~少年院の実践から~	竹田契一先生 他	13:00~16:30

詳しい案内文書・申し込みフォームは、LDセンターホームページよりダウンロードできます

<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/lcd/index.html>

大阪医科大学LDセンター 研修開発部

## 平成19年度 市民公開講座

平成19年度市民公開講座が、下記の通り開催されました。

### 第1回

平成19年4月21日(土) 14時～ 臨床第1講堂

『ドライアイ(乾き目)と

角膜(くろめ)の病気について』

講師：眼科 講師 清水 一弘

『点眼薬の上手な使い方』

講師：附属病院薬剤部 三好 康雄



清水 一弘 講師



三好 康雄 講師



## 平成19年度 市民公開講座開催予定

	開催日	演 題	科 名	講 師	薬剤師	薬剤師
第2回	5月19日(土)	人間ドックについて	教育機構	教育教授 出口 寛文	健康食品について	牧野 順子
第3回	6月16日(土)	中高年女性のヘルスケア	産婦人科	教授 大道 正英	健康食品について	牧野 順子
第4回	9月15日(土)	こどもの鼻の病気	耳鼻咽喉科	准教授 河田 了	子供の耳と鼻の病気に 使われるお薬と上手な 飲ませ方	牧嶋沙都子
第5回	11月17日(土)	大動脈瘤の話 ：突然死を予防する手術	胸部外科	教授 勝間田敬弘	大動脈瘤の予防に使わ れるお薬との上手な付 き合い方	小川真由子
第6回	12月15日(土)	血液の癌 [白血病について]	臨床検査医学	教授 田窪 孝行	癌の痛みを和らげる お薬について	高橋智恵子
第7回	平成20年 1月19日(土)	乳癌の乳房温存療法に ついて	放射線科	助教授 猪俣 泰典	乳癌のお薬の副作用	細見 誠

# 大学交流センター事業『市民講座』 行事日程

## 大学交流センター事業『市民講座』

会場：高槻市総合市民交流センター



開催日	演題	講師
5月9日(水) 14:00~15:30	腎臓の機能について	生理学 教授 窪田 隆裕
5月23日(水) 14:00~15:30	健康を維持するしくみ	研究機構 研究教授 吉田龍太郎
6月13日(水) 14:00~15:30	コレステロールと脂肪は同じ？ 違う？	生化学 准教授 矢野 貴人
6月27日(水) 14:00~15:30	タンパク質と健康： 食べたコラーゲンはどうなる？	生化学 教授 林 秀行
7月25日(水) 14:00~15:30	病気とウイルス	微生物学 教授 佐野 浩一

高槻市大学交流センター事業のお知らせ

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/kurasu/db4-daigaku.html>

### 主な行事日程(5月~7月)

5月2日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 診療科長会	13日(水)	大講座主任教授会 春季医学会総会 高槻市大学交流センター事業 「市民講座」 (於：高槻市総合市民交流センター)
8日(火)	理事会	16日(土)	市民公開講座
9日(水)	ご遺骨返納法要(於 光松寺) 大講座主任教授会 ナイチンゲール生誕祭 高槻市大学交流センター事業 「市民講座」 (於：高槻市総合市民交流センター)	20日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
12日(土)	看護専門学校学校祭(白友祭)	27日(水)	病院運営会議 高槻市大学交流センター事業 「市民講座」 (於：高槻市総合市民交流センター)
16日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会	7月4日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 診療科長会
19日(土)	市民公開講座	10日(火)	理事会
23日(水)	さつき会 病院運営会議 高槻市大学交流センター事業 「市民講座」 (於：高槻市総合市民交流センター)	11日(水)	大講座主任教授会
26日(土)	理事会・評議員会	14日(土)	夏季休業(医学部医学科 8月26 日まで)
6月1日(金)	創立記念日	18日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
2日(土)	新入生歓迎会	21日(土)	夏期休業(看護専門学校 8月31 日まで)
6日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 診療科長会	25日(水)	病院運営会議 高槻市大学交流センター事業 「市民講座」 (於：高槻市総合市民交流センター)
12日(火)	理事会		

### 高槻市医療従事者講習会

# 薬の医療ミスを防止するために - 薬剤師によるリスクマネジメント検討会報告 -

病院薬剤部 課長補佐 **西原雅美**

平成19年1月27日(土)、本学臨床第 講堂において、高槻市医療従事者講習会「薬の医療ミスを防止するために - 薬剤師によるリスクマネジメント検討会報告 -」が開催されました。この講習会は、「病院内での薬に起因する医療事故防止のための薬剤師の役割 - 薬剤師によるリスクマネジメント -」事業の結果を医療従事者に伝え、医療安全の向上と医薬品の適正使用の促進を図ることを目的に、高槻市が主催したものです。

高槻市は平成15年4月の中核市移行に伴い市に保健所を設置、従来、大阪府が実施していた保健衛生業務の一部を独自で実施することとなりました。また、大学病院、救命救急センター、赤十字病院等様々な病院を有し、幅広い医療が提供されているという特性を持っております。本事業は、平成16年度から3ヵ年事業として、高槻市保健所がコーディネート役となり、市内の一般病床を有する各病院(13施設)及び高槻市薬剤師会が連携して実施されたもので、医療事故防止のための病院内での薬剤師の役割やその取組みについて検討することにより、患者サービス及び医療の質の向上を図り、医療への信頼を高めることを目的としております。骨子としては 現状把握調査(各施設の概要と薬剤師の現状を把握する調査) アンケート調査(各施設における薬剤師自身及び他の医療従事者(医師・看護師)から見た薬剤師像と期待度の調査) インシデント事例収集・分析(実際に各施設で発生したインシデント・アクシデント事例の中からくすりに起因するものを収集・分析・改善策の検討を行う)という3つの大きな柱からなり、その結果をフィードバックするため、今回の医療従事者講習会は、後に開催した市民講座と併せて事業の総決算と位置付けられております。

今回の講演会は、まず主催者を代表して奥本務高槻市長から開会の挨拶があった後、本事業の概要：高槻市保健所 中村祥子氏 事業結果と検討結果及び今後の課題：大阪医科大学附属病院 西原雅美 各病院におけるリスクマネジメントの取組み：高槻赤十字病院 土橋彰氏、うえだ下田部病院 霜尚子氏 保険薬局におけるリスクマネジメントの取組み：高槻市薬剤師会会長 松尾 浩氏 と講演が続ぎ、演者と参加者の意見交換の場を設けた後、最後に本検討会の会長である三島救命救急センター 薬局長 上山進氏より閉会の挨拶をもって終了となりました。参加者総数は121名(スタッフ除く)で、会場にて配布した「医療安全への患者参加についてのアンケート」の回収は104枚(回収率86%)でした。



開会の挨拶をされる奥本高槻市長

各調査結果及び検討会結果から、我々薬剤師に寄せられている期待は高く、薬に係るあらゆる場面での積極的な関与を要望されておりました。また医療事故防止には、医療者間の連携が不可欠であること、薬剤師は薬の専門家として、様々な薬に関する業務を行うことが必要とされること、患者はリスクの発見者として重要な役割をもつと考えられることなどが考察されました。安心・安全な医療の提供に薬剤師が必要不可欠であることを我々薬剤師が身を持って示していくとともに、薬剤師の具体的な役割と取組み方法を検討し、各々の業務に活かし、顔の見える薬剤師としての活動を心がけることで、医療の透明性

も増し、患者参加型の医療が実現できると考えられます。その結果、患者が素朴な疑問でも気軽に問い掛けることが容易になれば、医療従事者側もそれに応えるべく質の向上を図らなければなりません。患者を中心とした真の意味でのチーム医療や地域連携の実現が、医療事故の防止、安全で質の高い医療の提供に直結すると考えております。

尚、本研修会終了後、2月25日（日）には、本事業の最終目的であった、市民講座「自分のお薬知っていますか？ - 賢い患者学 - 」を高槻市生涯学習センターにて開催し、無事終了致しましたことを併せてご報告致します。ご参加、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



受付



中村祥子



西原雅美



土橋 彰



霜 尚子



松尾 浩

### - 薬剤師によるリスクマネジメント検討会報告 - (次第)

座長 医療法人愛仁会 高槻病院

薬剤科長 西川 直樹

1. 開会のあいさつ  
高槻市長 奥本 務
2. 薬剤師によるリスクマネジメント事業の概要について  
高槻市保健所 中村 祥子
3. 病院内での薬に起因する医療事故防止のための薬剤師の役割  
大阪医科大学附属病院薬剤部  
課長補佐・企画チームリーダー 西原 雅美
4. 病院薬剤部におけるリスクマネジメントの取り組み  
高槻赤十字病院薬剤部 第一課長 土橋 彰  
医療法人健和会 うえだ下田部病院 薬局長 霜 尚子
5. 保険薬局におけるリスクマネジメントの取り組み  
高槻市薬剤師会長 松尾 浩
6. 意見交換・討議
7. 閉会のあいさつ  
検討会会長(三島救命救急センター 薬局長) 上山 進

# 臨床治験センター

## 治験説明会

第2回治験説明会を、平成19年2月22日(木)午後5時から臨床第一講堂において、化学療法センター長の瀧内比呂也先生をお迎えし、医師、看護師、薬剤師及びその他職員を含め160人の出席のもと開催いたしました。

今回の説明会は、昨年の第1回治験説明会と同様に、院内職員の方々に、治験についてより深くご理解を頂くことを目的としました。

林哲也 臨床治験センター長の開催の挨拶および第1回治験説明会「治験の必要性を考える」のアンケート結果報告のあと、竹中洋病院長からは、臨床治験センターの立ち上げから現在までのあゆみについて初代センター長としてのお話をいただきました。ひきつづき治験責任医師として数多くの治験を実施されております瀧内比呂也 化学療法センター長より、「抗がん剤治験の現状と展望」という内容でご講演いただきました。日本の抗がん剤治験の現状と、治験に参加された大腸癌患者を例に国際治験に参加する意義についてご講演をいただきました。また、山田佳名子 治験コーディネータから、治験を実施するための準備、院内各部署との調整、被験者対応、症例報告書作成など、多岐にわたる治験コーディネータの日常業務を、治験の流れに沿って写真を用いて紹介しました。

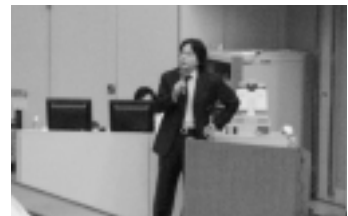
最後に出席者(グラフ)にアンケートをご記入いただき、閉幕いたしました。130名より回答を得たアンケートの集計結果では、今回の講演を聞いて治験コーディネータ(CRC)について「よくわかった(25.6%) ややわかった(53.5%)」とご回答を得ております(グラフ)。また、次回治験説明会の説明・講演内容については、「治験毎の事例を紹介してほしい」「実際に治験を受けた方の結果が知りたい」「治験にかかる費用を知りたい」など、多数のご意見をいただきました。皆様のご要望にお答えできるよう、今後も定期的な開催を予定しております。治験は、各科外来・病棟・検査部門・医事課をはじめとする院内各部署のご協力がなくては実施できません。今後もこのような機会を通して、院内各部署の方々に治験について理解を深めて頂きたいと考えております。



臨床治験センター 林 哲也



病院長 竹中 洋

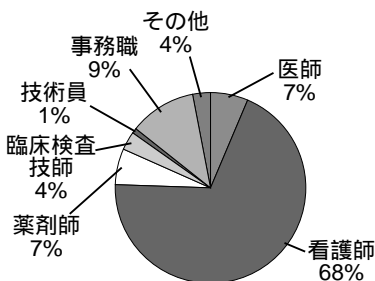


化学療法センター長 瀧内 比呂也

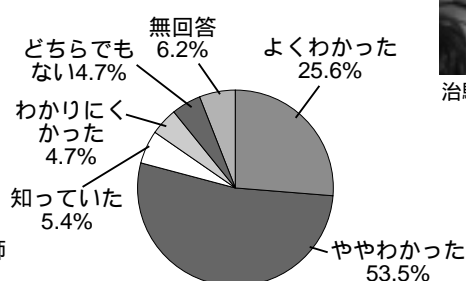


治験コーディネーター 山田佳名子

出席者(160名)の職種・グラフ



講演後CRCについての理解・グラフ





## 事例検討会

3月19日（月）午後5時から、臨床第一講堂において教職員（医療従事者）を対象に事例検討会が開催されました。米田医療安全対策室長のあいさつに続き、医療安全対策室・大門先生の司会により、救急医療部による事例の発表が行われ、その後、参加者との活発な意見交換があり、502名の出席のもと盛会裏に終了しました。



全体風景

**演題：『院内救急体制からみた問題事例』**



医療安全対策室 室長 米田博



司会：医療安全対策室  
心臓血管外科 大門雅広



発表者 救急医療部 小林正直

## 高槻市保健所・大阪医科大学附属病院合同 新型インフルエンザ対応机上シミュレーションについて

2月1日午後、本学附属病院内の会議室において高槻市保健所・本院合同「新型インフルエンザウイルス対応机上シミュレーション」が行われました。今回の訓練は関係者が机を囲んでシナリオを読み上げながら問題点を抽出するという新しい形式で行われました。初めて行う机上訓練は、予想に反してかなり緊迫感に満ちていました。またシナリオで休日に新型インフルエンザ疑い患者が病院を受診する設定で行われたため、その後の反省会では、現状の時間外受診受け入れ体制についても厳しい意見があがりました。机上シミュレーション実施の利点として、参加者にいやおうなく当事者意識をもたせる事が



あげられます。行政主催の訓練では、昨年より机上訓練が主流であるようで、今回も高槻市保健所保健予防課のご指導により実施することが出来ました。いよいよ、新型インフルエンザは、いつどこで発生してもおかしくない状況になっています。今後も初動態勢とその後の動きについての訓練を繰り返し、発生に備える予定です。最後に訓練に参加された職員、およびご協力いただきました高槻市保健所の関係者の皆様深くお礼を申し上げます。今後も皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

感染対策室 中川俊正

# 主要会議報告

---

## 主要会議とその主な議題(平成19年2月～4月)

### [理事会]

(平成19年3月29日・その2)

(平成19年2月13日)

報告事項

- 1. 大阪医科大学学則の一部改正について
- 2. 校賓の推薦について

- 1. 平成19年度事業計画について
- 2. 平成19年度予算について
- 3. 評議員の選任について

報告事項

- 1. 日本私立医科大学協会理事会報告
- 2. 学事報告
- 3. 病院関係事項報告
- 4. 看護学校関係報告他
- 5. 寄附金募集について
- 6. その他

### [評議員会]

(平成19年3月29日)

報告事項

- 1. 平成18年度資金収支決算見込報告について
- 2. その他(学長・病院長・看護学校長報告他)

審議事項

- 1. 平成19年度事業計画について
- 2. 平成19年度予算について
- 3. 監事候補者の選出について
- 4. 評議員候補者の選出について

(平成19年3月13日)

審議事項

- 1. 学校法人大阪医科大学危機管理に関する基本規程の制定について
- 2. 大阪医科大学学則の一部改正について
- 3. 学校法人大阪医科大学退職年金規程の一部改正について
- 4. 平成19年度予算案について
- 5. 奨学寄付金のオーバーヘッドの徴収について

### [大講座主任教授会]

(平成19年2月14日)

審議事項

- 1. 各大講座からの報告
- 2. 第13回教室の新設・統廃合に関する将来構想委員会報告
- 3. 今後の病理学教室のあり方について

報告事項

- 1. 担当理事運営会議報告
- 2. 日本私立医科大学協会理事会報告
- 3. その他(学事・病院関係事項・看護専門学校関係・その他)

(平成19年4月11日)

審議事項

- 1. 各大講座からの報告
- 2. 教育機構等の4規程改正(案)について

(平成19年3月29日・その1)

報告事項

- 1. 平成18年度資金収支決算見込報告書について
- 2. その他

### [教授会]

(平成19年2月7日)

審議事項

- 1. 平成19年度事業計画について
- 2. 平成19年度予算について
- 3. 理事の選任について
- 4. 監事候補者の選出について
- 5. 評議員候補者の選出について
- 6. 退職金規程の一部改正について

- 1. 人事に関する件
- 2. 救急医学教室担当教授の選考について
- 3. 内科学 教室担当教授の選考について
- 4. 教授投票権審議委員会(仮称)委員一覧について
- 5. 学内諸規程の改正について
- 6. 学内委員会の統廃合について
- 7. 大阪医科大学図書館規程及び大阪医科大学図書館運営委員会規則の改正について

## 報告事項

1. 学長報告
2. 広報・入試プロジェクト委員会委員長報告
3. 病院長報告
4. 研究機構長報告
5. その他

(平成19年2月19日)(臨時)

## 審議事項

1. 平成19年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 学内委員会の統廃合について
4. 学校法人大阪医科大学中山国際医学医療交流センター規程の改正について
5. 大阪医科大学学則の改正について
6. 助教(准)・学内講師の呼称について
7. 教育機構長の選任について
8. その他

## 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 教育センター長報告
4. その他

(平成19年2月23日)

## 審議事項

1. 平成19年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 救急医学教室担当教授の選考について

## 報告事項

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

(平成19年3月7日)

## 審議事項

1. 人事に関する件
2. 救急医学教室担当教授の選考について
3. 内科学 教室担当教授の選考について
4. 助教授(嘱託)の任用について
5. 大阪医科大学図書館利用内規の改正について
6. 大阪医科大学附属病院治験審査委員会業務手順書の改正について

## 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 病院長報告

(平成19年3月14日)(臨時)

## 審議事項

1. 平成19年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 各種委員会委員の改選について
4. 新職位制導入に伴う諸規程の改正等について
5. その他

## 報告事項

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. 研究機構長報告

(平成19年3月22日)

## 審議事項

1. 人事に関する件
2. 第1・2・3・4学年の進級合否判定に関する件
3. 各種委員会委員の改選について
4. 新職位制導入に伴う諸規程の改正等について
5. 第1学年の退学願い出に関する件
6. 大阪医科大学第2・4学年給付奨学生(特待生)候補について

## 報告事項

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. その他

(平成19年4月2日)(臨時)

## 審議事項

1. 平成19年度入学者決定に関する件
2. 各種委員会委員の改選について
3. 第101回医師国家試験成績及び今後の対応について
4. 平成19年度臨床教育助教授の追加上申について
5. 第1学年の退学願い出に関する件

## 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. その他

# 主要会議報告

---

(平成19年4月4日)

## 審議事項

1. 人事に関する件
2. 内科学 教室担当教授の選考について
3. 諸規程等の改正等について
4. 第1学年の退学願い出に関する件

## 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. 教育センター長報告

(平成19年4月18日)

## 審議事項

1. 人事に関する件
2. 教育機構等の4規程改正(案)について
3. 諸規程等の改正等について
4. 大阪医科大学給付奨学金支給規程に基づく特待生の決定について
5. 第1学年生の退学願い出に関する件
6. 第6学年の復学願い出に関する件

## 報告事項

1. 学長報告
2. 学生部長報告
3. その他

## [ 大学院医学研究科委員会 ]

(平成19年2月7日)

## 審議事項

1. 学外研修の許可願い出について
2. 平成19年度大学院の講義について

## 報告事項

1. 平成18年度第3回学位論文審査日程について

(平成19年2月23日)

## 審議事項

1. 平成19年度大学院入学試験に関する件
2. 学位論文審査に関する内規の改正について
3. 和歌山県立医科大学大学院医学研究科と本学大学院医学研究科との間における特別研究学生交流に関する協定書締結の件

## 報告事項

1. 研究生辞退の件
2. 平成18年度第3回学位記授与式について

3. 平成19年度大学院入学式について

4. 課程修了(甲)における大学院修了日及び単位取得退学日について
5. 願書その他申請書類等の署名、捺印について
6. 平成19年度の講義出欠確認について

(平成19年3月7日)

## 審議事項

1. 大学院生の退学願い出について

## 報告事項

1. 平成19年度統合講義日程について
2. 研究生(出向医)辞退について
3. 研究者等の公募について
4. その他

(平成19年3月22日)

## 審議事項

1. 学位論文審査結果に基づく可(合)否に関する件
2. 研究生及び研究生(出向医)の願い出に関する件
3. 平成19年度研究生及び研究生(出向医)の継続願い出に関する件

## 報告事項

1. 研究生辞退の件
2. 平成18年度大学院統合講義履修単位認定表について

(平成19年4月4日)

## 審議事項

1. 大学院生の退学願い出に関する件
2. 研究生の願い出に関する件

## 報告事項

1. 研究生辞退の件

(平成19年4月18日)

## 報告事項

1. 奨学生の公募について

# 平成19年度入学試験及び国家試験状況 附属病院関係

## 平成19年度 入学試験及び国家試験状況

### 平成19年度入学試験状況

(単位:人)

		志願者数	受験者数	入学者数
医学部 医学科		1842	1661	101
大学院医学研究科		32	32	29
看護専門学校	一般	226	189	62
	推薦	25	25	20
	合計	251	214	82

### 医師国家試験状況

		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
総数		110	92	83.6
新卒		96	86	89.6
既卒		14	6	42.9

### 看護師国家試験状況

		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第一看護学科		39	39	100.0
計		39	39	100.0
平成19年度	全国平均			90.6
	近畿平均			91.4
平成18年度	全国平均			88.3
	近畿平均			89.1

## 平成18年度下半期附属病院患者動態

### 平成18年度下半期の動態

	延入院患者数		外来患者数	
	(同上1日平均患者数) (新入院患者数)	対前年増減率	(同上1日平均患者数) (新患者数)	対前年増減率
H18.10	21,719	- 10.1%	46,883	1.5%
	700.6	- 10.1%	2,038.4	1.5%
	1,192	3.0%	4,751	- 4.7%
H18.11	21,646	- 6.3%	45,769	- 0.5%
	721.5	- 6.3%	2,080.4	- 0.5%
	1,267	6.2%	4,766	0.3%
H18.12	20,834	- 5.4%	45,331	2.4%
	672.1	- 5.4%	2,060.5	- 2.3%
	1,148	16.0%	4,501	- 2.2%
H19.1	19,938	- 1.9%	42,868	0.0%
	643.2	- 1.9%	2,041.3	0.0%
	1,272	9.6%	4,622	0.3%
H19.2	20,733	- 1.5%	43,423	- 1.7%
	740.5	- 1.5%	2,067.8	3.0%
	1,189	7.0%	4,712	1.0%
H19.3	23,193	- 2.5%	48,330	- 2.8%
	748.2	- 2.5%	2,013.8	- 2.8%
	1,282	1.3%	5,050	- 0.9%

### 平成19年度採用 附属病院臨床研修医

〔医科〕  
総数37名

〔歯科〕  
総数2名

### 平成18年度年間の動態

	入院				外来	
	1日平均患者数	1ヶ月平均新入院患者数	病床稼働率	平均在院日数	1日平均患者数	1日平均初診患者数
16年度	764.9	1,074	85.0%	19.9	2097.5	202.0
17年度	752.7	1,129	86.1%	18.4	2039.0	210.5
18年度	709.5	1,201	81.2%	16.1	2039.7	214.9
増減率(16-17)	- 1.6%	5.1%	1.3%	- 7.5%	- 2.8%	4.2%
増減率(17-18)	- 5.7%	6.4%	- 5.7%	- 12.5%	0.0%	2.1%

## 保健管理室からのお知らせ

### 長時間労働者の健康診断と医師による面接指導について

労働安全衛生法の改正（平成18年4月1日施行）により、長時間労働者（月100時間を超える時間外・休日労働）に対して医師による面接指導を実施することが義務付けられました。この背景には職場における心身の健康障害の増加が深刻な問題となっており、中でも長時間労働が仕事による負荷を大きくするだけでなく、睡眠・休養機会を減少させ、疲労蓄積の原因となり、心身の健康障害のリスクを高くすると考えられています。

本学では労働安全衛生法で定められた基準に加えて、“月45時間を超える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合”という独自の基準を設け、長時間労働者への健康診断、及び面接指導を実施します。

**【対象者】**月45時間を超える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合

**【実施時期】**特定業務従事者健診（5月）、職員定期健康診断（10月）と併せて実施

**【健診内容】**計測、尿検査、血液検査、胸部X線、心電図、メンタルヘルス調査票  
（但、5月の健診については、血液検査、胸部X線、心電図を除く）

**【面接指導】**健康診断およびメンタルヘルス調査票の結果、面接指導が必要であると産業医の指示があった場合、医師（本学の健康管理医）による面接、及び健康相談を実施します。また産業医の指示がなくても、本人の希望がある場合、相談を受けることができます。

### 特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診のご案内

平成19年度特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を実施します。

**【日時】**平成19年5月23日（水）～25日（金） 9:00～12:00（受付終了11:30） 13:00～16:00（受付終了15:30）

**【場所】**研究棟1階 保健管理室

### B型肝炎ワクチン接種のご案内

平成19年度B型肝炎ワクチン接種を下記のような日程で実施します。4月に抗体検査を受けてワクチン接種を申し込みされた方には各接種実施時に案内をお送りします。

#### 平成19年度のB型肝炎ワクチン接種スケジュール

		6/6（水） 6/7（木）	7/4（水） 7/5（木）	12/5（水） 12/6（木）	2008 1/17（木） 1/18（金）
時間、場所		15:00～16:00、総合研究棟1階 保健管理室			
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	1回目 ワクチン接種	2回目 ワクチン接種	3回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査		

### カウンセリングのご案内

保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っています。臨床心理士に相談することは特別なことと考えられる方も多いですが、風邪や発熱であれば服薬・受診するように、こころが不調になれば専門医や臨床心理士に相談することが大切であり、特別なことではありません。悩みだけでなく、息抜き・ストレス発散の場としても気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

#### 【利用方法】

保健管理室（研究棟1階）に直接来室して下さい。電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。

受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（予約有の場合、17:00以降でも可）

問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話）

E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp

“HOKE-KAN”を発刊しました！

保健管理室の広報紙“HOKE-KAN”を発刊しました。健診や予防接種の案内、健康情報などを掲載する予定です。徐々に内容を充実させていきますので、HP（<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/hcs/>）と併せて是非ご覧下さい。

## 高槻市との共催による講演会

地域住民との交流を図ることを目的とし、高槻市との共催による講演会（本学）及び高槻市しょくいん出前講座（高槻市）を下記の通り開催いたしました。

当日は、多くの地域住民の方にお越しいただき、約110名の方にご参加いただきました。この度の事前講演会の経験を生かし、大阪医科大学歴史資料館・登録有形文化財 別館の正式公開に向けて準備を進めていきたいと思ひます。

関係各位のご協力により講演会を無事に終えることができ、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

平成19年3月3日（土） 午後2時～4時  
別館（歴史資料館）3階

### 1. 『在宅介護の心得』

講師：大阪医科大学附属看護専門学校 担当課長 城戸 滝枝



城戸滝枝担当課長

### 2. マンドリン・ギター競演

演奏者：Zelkova（高槻市職員グループ）



Zelkova



Zelkova

### 3. 『古代の王権と淀川の鵜飼』 - 今城塚古墳の調査から -

講師：高槻市立しろあと歴史館館長 森田 克行



森田克行館長

共 催：大阪医科大学歴史資料館  
高槻市役所市長公室 市民相談センター

## 歴史資料館展示資料収集に関するお願い

講義実習棟1階入口に掲げられていました「医学教育を象徴する講義風景のレリーフ」は、状態を調査いたしました結果、風雨による腐食が激しく修復する必要があることがわかりましたので、平成16年12月に撤去工事を行いました。レリーフの修復が完了いたしましたので、皆様に再会していただけるよう以前より予定しておりました登録有形文化財 別館の1階講堂に平成19年3月20日に取付け工事を行いました。

現在、大阪医科大学歴史資料館では、創立80周年記念事業の一環として平成19年度中のオープンに向けて調整を進めているところであります。

さて、学報71号（平成19年2月発行）にて、歴史資料館に展示いたします資料を学内外に募りましたところ、新たに1名の方（別表）よりご恵与賜りました。本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

本事業は永續性のあるもので引き続きご恵与の受付を行っておりますが、特に昭和15年～昭和30年頃の資料が大変不足しておりますので、大阪医科大学歴史資料館の趣旨にご賛同いただける方におかれましては、ご恵与賜りますよう何卒よろしくごお願い申し上げます。

尚、ご恵与いただきます展示資料に関しましては下記の要領にてお手続きいただきますようよろしくお願い致します。

また、ご自宅に保管されている卒業アルバムで借用をお許しただけの方がございましたら、ご恵与いただきます展示資料と同様に下記の要領にて、本学歴史資料館までご連絡いただければ幸甚に存じます。

尚、借用いたしました卒業アルバムにつきましては、資料のデジタル化作業が終了次第ご返却いたしますので、ご協力のほど何卒よろしくごお願い申し上げます。

### 【募集要領】

#### ➤ 展示対象資料について

制服、制帽、学生証、写真（校舎・構内集合写真・授業風景など）、授業ノート、講義資料、実習器具（顕微鏡・解剖用具など）、古い医療器具、その他関連資料

#### ➤ 連絡・送付方法について

ご恵与いただけます場合には、資料の由来等を別紙（P73参照）複製のうえご記入いただき、ご署名のうえ、資料コピー（機械・備品類につきましては写真）を添えてファックスまたは郵便にてご送付願います。書籍・雑誌などに関しましては、まず題名・著者・発行年・発行所などを記したリストをご送付下さい。

展示・保存のスペースが限られておりますので、展示の可能性や現有のものとの重複がないことを確認し、改めて送付方法のご案内を申し上げます。

#### ➤ 資料の展示・保管について

ご恵与いただきました資料につきましては記録整理の上、個人情報保護法に基づく同意を得て恵与者名等を明記して各コーナーに順次展示いたします。展示資料は一定の期間で入れ替えし、展示期間外は資料館内倉庫で保管する予定です。

尚、ご恵与いただきました資料等は返却いたしかねますので、あらかじめご承知願います。

【連絡・送付先】大阪医科大学 歴史資料館

電話番号 072 - 684 - 6738（内線番号：2986） F A X 番号 072 - 684 - 6021

E-mail trad@art.osaka-med.ac.jp

歴史資料館展示資料 平成19年1月1日～平成19年3月31日 恵与分

（敬称略）

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H19.3.5	田中 清子	卒業アルバム（高医5期生） 他7点	故田中忠彌（高医昭和11年卒）夫人



大阪医科大学 歴史資料館 展示対象資料

<p><b>[ 資料名 ]</b>          ・いずれかに○印をお付けください。          ・該当するものがないときは「その他」に○印と品名を記入願います。           ( ) 部分に詳細を記入願います。</p>	<p>制服・制帽・学生証          写真 ( )          講義ノート・講義資料・教科書          実習器具 ( )          医療器具 ( )          その他 ( )</p>
<p><b>[ 資料が使われていた時期 ]</b>          ・写真の場合、撮影時期を記入ください。          ・時期が特定できない場合はおおよそ何年頃と記載願います。</p>	<p>大正 年頃          昭和 年頃          平成 年頃          その他 ( )</p>
<p><b>[ 資料の由来について ]</b></p>	
<p><b>[ 氏名 ]</b></p>	
<p><b>[ 本学との関係 ]</b></p>	<p>卒業生 高医・医学部 年卒          看護専門学校 年卒          その他 ( )</p>
<p>住 所</p>	<p>〒</p>
<p>電 話 番 号</p>	
<p>ファックス番号</p>	
<p>e-mailアドレス</p>	
<p><b>[ 学報への掲載について ]</b>          個人でのご惠与の場合、該当するものに ○印を記入願います。</p>	<p>同意する ・ 同意しない</p>

資料が複数の場合は、お手数ながら1点ごとに作成願います。

ご提供いただいた個人情報は、惠与資料の事務処理（惠与資料についての問い合わせ、送付方法の案内、感謝状・拝受資料目録の送付、歴史資料館の事業に関する連絡状・案内状の送付）本学学報への掲載、展示説明文への記載以外では一切使用いたしません。なお、これらの利用に関するお問い合わせについては、下記までご連絡ください。

歴史資料館 担当者 電話番号：072-684-6738

大阪医科大学俳句会（二・三・四月）

わが母は明治の女紀元節

塚本務人

同行二人阿波にはじまる遍路杖

同

泥濘やカヘルの卵に目玉あり

今井雄介

寒明けや学生と読むアメリカ史

中川一成

試着には派手な柄選る四月馬鹿

同

痛さ知る絵踏の足裏耶穌に生き

吉田孝江

エウアは産み人祖アダムは耕せり

同

試し塗りされて紅買ふ小町の忌

飯塚久子

雑道具京のかまどに薪揃ふ

同

春近し逆さまに立つマヨネーズ

美濃眞

啓蟄やキリンは奇異な舌を出し

同

春の山ものみな入れてふくれ初む

宮脇芳美

小商ひよろしくたのむ初戎

山崎隆司

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、  
当句会で会員の出句と同じように選句します。  
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町 2-7  
大阪医科大学

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



小児病棟が病院6号館5階（65病棟）にリニューアルオープンしました。

入院生活が少しでも楽しく送れるように、病室、プレイルーム、処置室、洗面所さらにはトイレにも子供たちが喜ぶような工夫がされています。



## ——誕生墓目（たんじょうひきめ）の儀——

平成19年2月25日午前11時、城北キャンパスにおいて厳かに弓道場開きが執り行われました。法人理事より学生諸氏へのご指導やご支援に対する謝辞、道場移設の経緯説明、医師養成の中での弓道の在り方、学生諸氏への思いをこめた挨拶がありました。引き続き、砂口師範からご来賓やご協力いただく皆様への謝辞、誕生墓目（たんじょうひきめ）の説明を頂きました。来賓の代表、大阪府弓道連盟坂根理事長から祝辞として、「射は仁の道なり」と「医は仁術なり」についてご自身の思い出を例にお話を頂き、道場開きのお祝いと今後の大阪医科大学弓道部員の活躍と部の発展をお祈りいただきました。



射手（砂口勝紀 小笠原重藤格）を先頭に、手明会添（佐保川誠）、替弓持（須名和夫）、太刀持（福永憲司）、的立役（関口公男）、矢拾い（佐藤みよ子）、合い並んで入場、手明会添の「周行七歩 忌み己に向かう 何処の者か 焉」との発声とともに古式に則り誕生墓目が行われました。畳を裏返して横に立て、白地の扇を7間開いて折紙と共に畳に挟み置かれた的に向かって放たれた墓目の鏑矢は「ボーウ」と音を立て的場に届き、邪気は払われました（敬称略）。

本来、墓目は人前で行われる儀式ではなく、夜中に魔障退散を祈って行われるものですが、下賀茂神社で葵祭の前儀として行われる「屋越の墓目」と住吉大社で行われる「祓いの墓目」が有名だそうです。墓目はかつて小笠原流の口伝秘伝と聞き及び、中でも今回道場開きで行われた「誕生墓目」を一般のものが目にするにはないようです。さわらぎキャンパスの旧弓道場の道場開き（昭和54年11月11日）に続き、本学で二度も「誕生墓目」が行われたことは誠に光栄なことだと感謝し、皆様にお知らせいたします。また、弓道場整備事業の募金に対してご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。



### 個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総務部 学報編集担当係 電話 072-684-6218

大阪医科大学学報 第72号

発行年月 平成19年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>